

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成24年6月29日

【事業年度】 第103期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 広島電鉄株式会社

【英訳名】 Hiroshima Electric Railway Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 越智秀信

【本店の所在の場所】 広島市中区東千田町二丁目9番29号

【電話番号】 082(242)3542

【事務連絡者氏名】 経理管理グループマネジャー 岡田茂

【最寄りの連絡場所】 広島市中区東千田町二丁目9番29号

【電話番号】 082(242)3542

【事務連絡者氏名】 経理管理グループマネジャー 岡田茂

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
営業収益 (百万円)	39,455	38,864	36,501	35,549	36,370
経常利益 (百万円)	2,320	1,513	725	931	970
当期純利益 (百万円)	1,567	555	179	867	1,271
包括利益 (百万円)				746	3,070
純資産額 (百万円)	28,969	28,882	29,037	29,624	32,520
総資産額 (百万円)	87,450	84,359	86,444	84,876	90,041
1株当たり純資産額 (円)	470.04	467.71	469.35	478.26	525.55
1株当たり当期純利益 (円)	25.83	9.16	2.96	14.30	20.95
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	32.6	33.6	32.9	34.2	35.4
自己資本利益率 (%)	5.6	2.0	0.6	3.0	4.2
株価収益率 (倍)	12.2	36.0	113.2	24.3	16.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,626	2,660	1,844	4,143	2,630
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,114	1,723	1,275	2,479	1,059
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,494	1,509	808	2,877	720
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	4,208	3,635	5,012	3,798	4,649
従業員数 (人)	1,867 (581)	1,890 (528)	1,862 (580)	1,850 (555)	2,053 (562)

(注) 1 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2 当社及び連結子会社は、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益は記載しておりません。

3 従業員数欄の( )内は臨時従業員の年間平均雇用人員であり、外書により表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
営業収益	(百万円)	17,760	18,745	16,348	17,102	17,012
経常利益	(百万円)	1,644	1,191	351	930	897
当期純利益	(百万円)	1,015	780	165	705	833
資本金	(百万円)	2,335	2,335	2,335	2,335	2,335
発行済株式総数	(株)	60,891,000	60,891,000	60,891,000	60,891,000	60,891,000
純資産額	(百万円)	26,072	26,159	26,242	26,623	29,053
総資産額	(百万円)	73,099	70,029	70,996	70,758	75,926
1株当たり純資産額	(円)	429.00	430.47	431.87	438.14	478.15
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	2.50 ( )	2.50 ( )	2.50 ( )	2.50 ( )	3.50 ( )
1株当たり当期純利益	(円)	16.71	12.85	2.73	11.61	13.72
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	35.7	37.4	37.0	37.6	38.3
自己資本利益率	(%)	3.9	3.0	0.6	2.7	3.0
株価収益率	(倍)	18.8	25.7	122.7	30.0	25.0
配当性向	(%)	15.0	19.5	91.6	21.5	25.5
従業員数	(人)	1,253 (183)	1,271 (183)	1,254 (186)	1,255 (165)	1,270 (156)

- (注) 1 営業収益には消費税等は含まれておりません。  
 2 当社は、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益は記載しておりません。  
 3 従業員数欄の( )内は臨時従業員の年間平均雇用人員であり、外書により表示しております。  
 4 第103期の1株当たり配当額3.50円には、電車開業100周年に伴う記念配当1.00円が含まれております。

2 【沿革】

年月	概要
明治43年6月	広島電気軌道株式会社 設立 資本金300万円
大正元年11月	創業(軌道線開業)
大正6年7月	広島瓦斯電軌株式会社 設立 (広島瓦斯会社と合併) 資本金600万円
昭和6年2月	宮島線全線開通
昭和13年2月	広島乗合自動車(株)を合併、自動車部創設
昭和16年8月	広島郊外自動車(株)を合併
昭和17年4月	広島電鉄株式会社 設立 資本金750万円 (広島瓦斯電軌株式会社より交通事業を分離)
昭和18年4月	政府のバス事業統合方針に基づき、三段峡自動車(株)他6社合併
昭和20年8月	広島に原子爆弾投下 市内電車・市内バス全線不通
昭和20年8月	市内電車 己斐～西天満間復旧運転開始、以下順次各線復旧
昭和23年12月	市内電車白島線を除き全線復旧
昭和24年6月	広島証券取引所上場
昭和27年6月	市内電車白島線 新線により営業開始
昭和29年6月	広電観光株式会社(現連結子会社) 設立
昭和31年2月	中国観光株式会社買収
昭和31年8月	広島観光開発株式会社(現連結子会社) 設立
昭和32年6月	広島観光汽船株式会社 設立
昭和33年3月	宮島松大観光船有限会社へ資本参加(現 宮島松大汽船株式会社)
昭和35年3月	広電興産株式会社(旧) 設立(現 株式会社広電ストア)
昭和36年2月	広電不動産株式会社(現連結子会社) 設立
昭和36年6月	有限会社やまとタクシーへ資本参加
昭和37年11月	備北交通株式会社(現連結子会社)へ資本参加
昭和38年4月	広電タクシー株式会社 設立(現 広電興産株式会社)
昭和40年10月	株式会社広電宮島ガーデン(現連結子会社) 設立
昭和44年7月	不動産部新設(不動産事業開業)
昭和45年5月	株式会社広電プラザ 設立(現 株式会社ヒロデンプラザ)
昭和46年4月	広電住宅産業株式会社 設立(現 広電建設株式会社)
昭和48年2月	株式会社ホテルニューヒロデン(現連結子会社) 設立
昭和53年12月	広電住宅産業株式会社 広電建設株式会社(現連結子会社)に商号変更
昭和57年6月	広電興産株式会社 株式会社広電ストア(現連結子会社)に商号変更
平成3年4月	株式会社グリーンパース・ヒロデン(現連結子会社) 設立
平成7年10月	株式会社広電プラザ 株式会社ヒロデンプラザ(現連結子会社)に商号変更
平成9年4月	貸切自動車部 廃止
平成9年12月	広電タクシー株式会社 自動車運送事業を譲渡し、広電興産株式会社(現連結子会社)に商号変更
平成11年1月	エイチ・ディー西広島株式会社(現連結子会社) 設立
平成11年3月	株式会社交通会館(現連結子会社) 設立
平成11年3月	超低床電車5000形「グリーンムーバー」を導入
平成12年3月	東京証券取引所市場第二部上場
平成14年12月	ひろでん中国新聞旅行株式会社 設立
平成15年10月	ひろでん中国新聞旅行株式会社 広電観光株式会社の旅行部門、株式会社中国新聞トラベル・サービスを合併・統合
平成16年6月	宮島松大観光船有限会社 株式会社に移行し、宮島松大汽船株式会社(現連結子会社)に商号変更
平成17年3月	国産初の完全超低床電車5100形「グリーンムーバーマックス」を導入
平成20年1月	広島県交通系ICカード「PASPY」(パスピー)を導入
平成24年3月	芸陽バス株式会社(現連結子会社)の株式を追加取得し、子会社化
平成24年4月	呉市交通局の廃止により、バス事業を承継し、呉地域の運行を開始

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社18社及び関連会社2社で構成され、その営んでいる主要な事業内容及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

#### (1) 運輸部門(9社)

事業の内容	会社名
鉄軌道事業	当社
自動車事業	当社、備北交通(株) 1、エイチ・ディー西広島(株) 1、芸陽バス(株) 1 (有)やまとタクシー 2
索道業	広島観光開発(株) 1
海上運送業	宮島松大汽船(株) 1、広島観光汽船(株) 2
航空運送代理業	広電観光(株) 1

#### (2) 流通部門(3社)

事業の内容	会社名
物品販売業	(株)広電ストア 1、(株)広電宮島ガーデン 1、(有)広電商事 2

#### (3) 不動産部門(4社)

事業の内容	会社名
不動産賃貸業	当社、広電不動産(株) 1、広電興産(株) 1、(株)交通会館 1
不動産販売業	当社

#### (4) 建設部門(2社)

事業の内容	会社名
土木・建築業	広電建設(株) 1
電気通信工事業	大亜工業(株) 3

#### (5) レジャー・サービス部門(5社)

事業の内容	会社名
ホテル業	(株)ホテルニューヒロデン 1
飲食業	(株)広電宮島ガーデン 1
ボウリング業	(株)ヒロデンプラザ 1
ゴルフ業	(株)グリーンパース・ヒロデン 1
旅行業	ひろでん中国新聞旅行(株) 3

- (注) 1 1 連結子会社  
 2 2 非連結子会社  
 3 3 持分法適用の関連会社  
 4 上記部門の会社数には当社、(株)広電宮島ガーデンが重複して含まれております。  
 5 芸陽バス(株)は平成24年3月9日の株式追加取得に伴い、当連結会計年度より持分法適用関連会社から連結子会社となりました。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容、役員の状況
(連結子会社) 広電不動産(株)	広島市中区	120	不動産賃貸業	100.0	土地の賃貸をしている。 役員の兼任 5名(当社役員 5名)
(株)広電ストア (注) 3, 4	広島市中区	96	物品販売業	100.0	物品の購入・土地及び建物の賃貸をしている。 役員の兼任 4名(当社役員 4名)
広電建設(株)	広島市中区	50	土木・建築業	100.0	土木建築の発注・建物の賃貸をしている。 役員の兼任 5名(当社役員 5名)
広電観光(株)	広島市中区	98	航空運送代理業	100.0 (25.0)	定期券発売業務の委託・建物の賃貸をしている。 役員の兼任 3名(当社役員 3名)
備北交通(株)	広島県庄原市	45	自動車事業	88.7	役員の兼任 5名(当社職員 5名)
(株)広電宮島ガーデン	広島市中区	50	物品販売業 飲食業	100.0	定期券発売業務の委託・土地の賃貸をしている。 役員の兼任 5名(当社役員 4名、当社職員 1名)
宮島松大汽船(株)	広島県廿日市市	60	海上運送業	60.0	土地の賃貸をしている。 役員の兼任 4名(当社役員 3名、当社職員 1名)
(株)ヒロデンプラザ	広島市中区	40	ポウリング業	100.0	土地の賃貸をしている。 役員の兼任 3名(当社役員 2名、当社職員 1名)
(株)グリーンパース・ヒロデン (注) 3	広島県三原市	90	ゴルフ業	100.0	役員の兼任 4名(当社役員 4名)
(株)ホテルニューヒロデン	広島市南区	210	ホテル業	100.0	土地の賃貸をしている。 役員の兼任 3名(当社役員 3名)
広電興産(株)	広島市中区	20	不動産賃貸業	100.0	建物の賃貸をしている。 役員の兼任 4名(当社役員 3名、当社職員 1名)
エイチ・ディー西広島(株)	広島市西区	30	自動車事業	100.0	土地・建物の賃貸をしている。 役員の兼任 6名(当社職員 6名)
広島観光開発(株) (注) 2	広島市中区	125	索道業	57.3 (17.4)	役員の兼任 6名(当社役員 4名、当社職員 2名)
(株)交通会館	広島市東区	156	不動産賃貸業	61.6	役員の兼任 1名(当社役員 1名)
芸陽バス(株)	広島県東広島市	100	自動車事業	92.9	役員の兼任 4名(当社職員 4名)
(持分法適用関連会社) 大亜工業(株)	広島市中区	241	電気通信工事業	20.1	電路・電気工事の発注をしている。 役員の兼任 1名(当社役員 1名)
ひろでん中国新聞旅行(株)	広島市中区	100	旅行業	50.0 (4.6)	役員の兼任 3名(当社役員 3名)

(注) 1 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2 上記会社のうち、広島観光開発(株)は有価証券報告書を提出しております。

3 債務超過会社 債務超過額は次のとおりであります。

(株)広電ストア 4,683百万円

(株)グリーンパース・ヒロデン 1,705百万円

4 (株)広電ストアは、連結営業収益に占める営業収益(連結会社間相互間の内部営業収益を除く。)の割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(株)広電ストア	営業収益	9,135百万円
	経常損失( )	39百万円
	当期純損失( )	40百万円
	純資産額	4,683百万円
	総資産額	2,971百万円

## 5 【従業員の状態】

### (1) 連結会社の状態

#### セグメント別従業員数

平成24年3月31日現在

運輸業(人)	流通業(人)	不動産業(人)	建設業(人)	レジャー・サービス業(人)	計(人)
1,672 (169)	151 (340)	109 (-)	44 (-)	77 (53)	2,053 (562)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は( )内に年間平均雇用人員を外書で記載しております。

### (2) 提出会社の状態

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,270 (156)	45.3	18.1	5,427,840

- (注) 1 従業員数は休職者11人、組合専従者6人を含まない就業人員であります。  
 2 平均年間給与(税込額)は、諸手当及び賞与を含んでおります。  
 3 従業員数欄の( )内は臨時従業員の年間平均雇用人員であり、外書により記載しております。

#### セグメント別従業員数

運輸業(人)	不動産業(人)	計(人)
1,166 (146)	104 (10)	1,270 (156)

### (3) 労働組合の状態

当グループ内には、労働組合が10社においてそれぞれ組織されており、総組合員数は1,864人でありま  
 す。

なお、提出会社において組織されている、私鉄中国地方労働組合広島電鉄支部は、日本私鉄労働組合総  
 連合会に属しております。

労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響から徐々に回復の兆しが見られたものの、欧州債務問題の再燃や、タイの大規模洪水による製造業への影響、長引く円高、そして中東情勢の悪化による原油価格の高騰など、依然として先行きの不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、輸送の効率化や利便性の向上に努めるとともに、旅客輸送における安全確保のための設備投資を積極的に実施したほか、平成24年2月には紙屋町に「広島トランヴェールビルディング」が竣工となり、平成24年3月からは分譲マンション「アンヴェール比治山公園」を販売開始するなど、積極的な事業展開を進め、収益の確保に努めました。

当連結会計年度の営業収益は、不動産業において宅地分譲が減少し減収となったものの、運輸業、流通業および建設業が増収となり、前連結会計年度に比べ2.3%、821百万円増加し、36,370百万円となりました。利益につきましては、原油高騰の影響による運輸業における燃料費の増加などが影響し、営業利益は、前連結会計年度に比べ5.4%減少し、1,333百万円となりました。経常利益は、金利の低下に伴う支払利息の減少により営業外費用が減少したため、前連結会計年度に比べ4.2%増加し、970百万円となりました。また、レジャー・サービス業の固定資産の一部につき減損損失を特別損失に計上したものの、株式の追加取得により持分法適用関連会社である芸陽バス(株)を連結子会社化したことに伴う「負ののれん発生益」を特別利益に計上したほか、当社において、課税所得の計算上、棚卸資産の評価方法に低価法を適用したことに伴い、重要な損金算入項目が発生したことにより法人税等の負担が減少したため、当期純利益は、前連結会計年度に比べ46.5%増加し、1,271百万円となりました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (運輸業)

運輸業におきましては、ICカード乗車券「PASPY」の利用者の増加や、宮島を訪れる観光客の増加により、おおむね順調に推移いたしました。

このような情勢のもと、引き続き輸送の安全確保に努めるとともに、広島市中心部へのICカード乗車券「PASPY」の自動チャージ機増設や、バス車両の代替などに積極的に取り組み、より一層の利便性や快適性の向上に努めました。

鉄軌道事業では、平成23年4月に3号線（広電西広島～紙屋町西～広島港）及び5号線（広島駅～比治山下～広島港）において、広島港行を宇品二丁目で折返し運行とすることで、効率化を図りました。7月には、ダイヤ改正実施後の状況を勘案し、再度5号線のダイヤ改正を行いました。また、平成24年2月には、ICカード利用の全扉乗降の試験を行い、安全性、乗降時分の変化等を検証いたしました。

施設面では、井口駅の下りホームを延長し、手すりとスロープを設置することで安全性の確保とバリアフリー化を行いました。また、分岐器交換や軌条の重ルール化を実施し、保安度の向上に努めるとともに、変電所変成器の更新工事により、電力の安定供給と送電能力の増強を図りました。

自動車事業では、沿線環境やお客様のニーズに対応したダイヤの見直しを実施し、利便性の向上と輸送の効率化を図りました。また、CNG（圧縮液化天然ガス）バスやノンステップバスへの代替を促進し、車両の低公害化とバリアフリー化に積極的に取り組みました。

海上運送業では、平成23年8月の宮島水族館リニューアルオープンと平成24年1月から放送されてい

るNHK大河ドラマ「平清盛」の効果により、宮島への来島者が大きく増加し、大幅な増収となりました。

索道業では、平成23年7月に発生した台風6号の施設被害により約1か月間にわたり運休となったことなどにより、減収となりました。

航空運送代理業では、広島空港内での国際貨物業務を新たに受託したものの、前連結会計年度に広島西飛行場営業所を閉鎖した影響が大きく、減収となりました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は、前連結会計年度に比べ1.7%、300百万円増加し、17,556百万円となり、営業利益は、前連結会計年度118百万円に対し、13.3%減の102百万円となりました。

提出会社の運輸成績表

(鉄軌道事業)

種別	単位	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	対前期増減率(%)	
営業日数	日	366	0.27	
営業キロ	キロ	35.1		
客車走行キロ	千キロ	12,796	0.39	
輸送人員	定期	千人	12,233	1.61
	定期外	"	42,495	2.39
	計	"	54,728	1.47
旅客運輸収入	定期	百万円	811	1.68
	定期外	"	4,941	2.01
	計	"	5,752	1.47
運輸雑収	"	426	8.65	
運輸収入合計	"	6,179	1.94	
1日平均収入	"	16	1.66	
乗車効率	%	33.8	3.05	

(注) 乗車効率の算出方法

$$\text{乗車効率} = \text{延人キロ} / \text{延定員走行キロ} \times 100$$

(自動車事業)

種別	単位	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
			対前期増減率(%)
営業日数	日	366	0.27
営業キロ	キロ	1,192.0	0.46
客車走行キロ	千キロ	21,287	0.19
乗合旅客人員	定期	千人	7,725
	定期外	"	25,947
	計	"	33,673
乗合旅客 運送収入	定期	百万円	1,244
	定期外	"	6,701
	計	"	7,946
貸切旅客運送収入	"	109	0.25
旅客運送雑収	"	357	4.87
運送収入合計	"	8,412	1.87
1日平均収入	"	22	1.59
乗車効率	%	16.9	1.81

(注) 乗車効率の算出方法

$$\text{乗車効率} = \text{延人キロ} / \text{延定員走行キロ} \times 100$$

業種別営業成績

業種別	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
	営業収益(百万円)	対前期増減率(%)
鉄軌道事業	6,179	1.94
自動車事業	9,782	1.92
その他	1,681	0.98
消去	86	
計	17,556	1.74

(流通業)

流通業におきましては、個人消費の低迷や競合店の出店増加、前連結会計年度に高速道路料金の特別割引制度が廃止されたことなどが影響し、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のもと、マダムジョイ店舗においては、企画フェアの開催やクーポン券等のサービスを実施したことで増収となり、さらには楽々園店への大手家電量販店のテナント誘致や原油価格の高騰による売上高の増加が、増収に大きく寄与しました。また、宮島口もみじ本陣においては、前連結会計年度に実施した店舗改装の効果と、宮島水族館リニューアルオープン、NHK大河ドラマ「平清盛」の効果により、大幅な増収となりましたが、サービスエリアにおいては、高速道路料金の特別割引制度の廃止による利用客の減少により、減収となりました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は、前連結会計年度に比べ1.3%、156百万円増加し、12,231百万円となり、営業利益は、前連結会計年度56百万円に対し、78.5%増の100百万円となりました。

業種別営業成績

業種別	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
	営業収益(百万円)	対前期増減率(%)
物品販売業	12,235	1.28
消去	3	
計	12,231	1.30

(不動産業)

不動産業におきましては、事業所の撤退や統廃合により空室率の上昇や賃料の下落が続き、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のもと、不動産賃貸業では、前連結会計年度中に、「宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜」内の土地を流通店舗に賃貸するなど増収要因はあったものの、テナントの退去や賃料の減額による影響が大きく、減収となりました。しかしながら、平成24年2月に竣工した「広島ランヴェールビルディング」は全室ともテナントが決定いたしました。

不動産販売業では、前連結会計年度に引き続き、「宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜」の販売に努めたものの、前連結会計年度と比較し販売区画数が減ったため、減収となりました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は、前連結会計年度に比べ12.0%、402百万円減少し、2,943百万円となり、営業利益は、前連結会計年度1,041百万円に対し、12.4%減の913百万円となりました。

業種別営業成績

業種別	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
	営業収益(百万円)	対前期増減率(%)
不動産販売業	708	31.64
不動産賃貸業	2,389	2.87
消去	155	
計	2,943	12.02

(建設業)

建設業におきましては、公共工事の減少による受注競争が激しさを増すなど、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のもと、民間工事では、流通店舗の新築工事完成など受注が増加し、増収となりました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は、前連結会計年度に比べ6.0%、218百万円増加し、3,867百万円となり、営業利益は、前連結会計年度86百万円に対し、36.2%増の118百万円となりました。

業種別営業成績

業種別	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
	営業収益(百万円)	対前期増減率(%)
土木・建築業	3,867	5.99
消去		
計	3,867	5.99

## (レジャー・サービス業)

レジャー・サービス業におきましては、東日本大震災の影響が長引くと同時に、レジャー多様化の影響を受け、厳しい状況で推移いたしました。

ホテル業では、宿泊部門において、インターネットによる集客や、修学旅行の獲得などに努めたものの、東日本大震災と福島第1原発事故による風評や長引く円高により、外国人宿泊客が減少しました。しかしながら、宴会部門においては、積極的な営業活動により、婚礼件数が前連結会計年度よりも増加いたしました。

ボウリング業では、レジャー多様化の影響等により来場者が減少いたしました。料金プランの見直しが寄与しました。ゴルフ練習場においては、イベントの開催により固定客の獲得に努めたほか、ボール・マット交換等を実施し快適性の向上を図ったものの、夏期の節電によるマツダ関連企業の休日の変動が大きく影響し、来場者数は減少いたしました。

ゴルフ業では、平成23年4月の「広島中央フライトロード」の開通により、交通アクセスが大きく向上したことが寄与し、来場者数が大きく増加いたしました。

この結果、当連結会計年度の営業収益は、前連結会計年度に比べ1.3%、23百万円減少し、1,881百万円となり、営業利益は、前連結会計年度105百万円に対し、16.1%減の88百万円となりました。

## 業種別営業成績

業種別	当連結会計年度 (23.4.1~24.3.31)	
	営業収益(百万円)	対前期増減率(%)
ゴルフ業	274	13.46
ホテル業	1,070	4.13
その他	542	1.88
消去	6	
計	1,881	1.25

## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、当社の石内東地区開発事業推進に係る用地買収等たな卸資産の仕入に係る支出が増加したことなどにより、前連結会計年度と比較して1,512百万円減少の2,630百万円の資金収入となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、当期の主な設備投資に係る支払いが翌期にまわっていること等により、設備投資に係る支出が減少し、前連結会計年度と比較して1,420百万円少ない1,059百万円の資金支出となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、有利子負債の削減に努めましたが、前連結会計年度と比較して2,157百万円少ない720百万円の資金支出となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して850百万円増加の4,649百万円となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループがあつかうサービス・商品は多種、多様にわたり、その内容が一様でないため、生産能力の画一的表示が困難であり、セグメントごとに生産規模を金額あるいは数量で示すことはしていません。

そのため生産、受注及び販売の状況については、「1 業績等の概要」における各セグメントごとに業績に関連付けて示しております。

## 3 【対処すべき課題】

今後の経済見通しにつきましては、東日本大震災からの復興需要により、一部に回復の兆しが見えるものの、デフレの長期化や個人消費の低迷、欧州債務問題による海外経済の減速懸念や長引く円高など、景気を下押しするリスクが残り、当社グループを取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続くものと思われれます。

このような情勢のもと、当社グループといたしましては、平成24年は電車開業100周年、会社設立70周年の節目となる記念すべき年であることから、次の100年に向けて礎を築く年と位置付け、経営総合5ヵ年計画「MCAプラン2012」に掲げた、様々な経営課題に取り組むとともに、経済環境の変化への迅速な対応と安定した収益構造の構築に努め、安全性の確保を前提としたうえで、個々のお客様のニーズに応じたサービスや商品の提供による収益の獲得と、厳しい計数管理にもとづく経費の削減などに取り組み、収益性の向上に努めてまいります。

各セグメントによる対処すべき課題については、次のとおりであります。

### (1) 運輸業

運輸業におきましては、少子高齢化の進展による乗車人員の減少傾向に加え、今後も雇用情勢、所得環境の悪化が懸念され、厳しい経営環境が続くものと思われれますが、事業体質の改善強化を目指した施策を推し進めてまいります。

鉄軌道事業、自動車事業では、安全と安心の確保や、法令の遵守に努めるとともに、鉄軌道事業におきましては、広島駅前通り線の早期実現や、新たな超低床電車の導入、電停の整備やロケーションシステムの高度化等により、速達性・利便性・快適性・バリアフリー化の向上を目指し、路面電車のLRT化に向けて引き続き取り組んでまいります。

自動車事業におきましては、軽油価格の動向など、不確定要素も多く、変化に柔軟に対応した事業計画の策定や、効率的なダイヤ編成を適切に実施するとともに、ノンステップバスやCNGバスなど、バリアフリーや環境に配慮した車両の導入を引き続き推進してまいります。また、平成24年3月には持分法適用関連会社であった芸陽バス株式会社の株式を取得し子会社化し、平成24年4月からは呉市交通局からバス路線を譲り受け運行を開始しており、これにより自動車事業について、当社グループとしてより一層の一体的、広域のかつ効率的な事業展開を行い、より利便性の高いサービスの提供に向けて取り組んでまいります。

索道業および海上運送業では、安全を最優先とした設備の更新・改良を進めるとともに、営業活動を積極的に展開し、乗客の誘致に努めてまいります。

航空運送代理業では、引き続き徹底した安全運航の確保と接客サービスの更なる向上に努めてまいります。

### (2) 流通業

流通業におきましては、価格競争の激化や、雇用情勢、所得環境の悪化、個人消費の低迷が懸念され、また、サービスエリア事業では、高速道路料金割引の廃止に加え、燃料価格の高騰による利用客の減少が懸念さ

れ、今後も厳しい状況が予想されます。

このような状況のなか、マダムジョイ店舗においては、商品の鮮度維持・品質向上に努め、より安全・より安心な商品の提供をするとともに、他店と業務提携を行うことにより従業員のレベルアップや生産性を向上させ、収益力の向上と財務体質の抜本的な改善を図ってまいります。宮島口もみじ本陣では、NHK大河ドラマ「平清盛」による効果が引き続き期待される中、リニューアルした店舗を最大限に有効活用し、積極的な営業活動を展開するとともに、新商品の導入などによる増収に努めてまいります。サービスエリアにおいては、新たな商品・料理メニューの開発や、積極的なイベント開催、3S（接客・商品選択・清掃）の向上を図り、集客に努めてまいります。

### (3)不動産業

不動産業におきましては、広島市都心部における新規大型オフィスビルの建築などにより、テナントの誘致競争が激化し、既存ビルからのテナント退去の頻発が予想され、空室化の更なる進行が懸念されます。

このような状況のなか、平成24年2月に竣工した「広島トランヴェールビルディング」によって街の賑わいを創造するとともに、成約状況が好調に推移している平成25年2月竣工予定の分譲マンション「アンヴェール比治山公園」の早期完売を達成することによって、当社のブランドイメージを確立し、今後、事業開発が本格化する商業施設を核とした広島市佐伯区の「石内東地区開発事業プロジェクト」を積極的に進めてまいります。

### (4)建設業

建設業におきましては、民間工事の受注増加に向け、積極的な営業努力を行うとともに、引き続き工事原価の見直しなどにも力を入れ、営業利益の確保に努めてまいります。

### (5)レジャー・サービス業

レジャー・サービス業におきましては、個人消費の低迷や、レジャーの多様化、同業他社との価格競争の激化等が懸念され、今後も厳しい状況が予想されますが、積極的な営業活動を展開するとともに、顧客満足度向上のための設備改修や社員教育の充実に取り組んでまいります。

ホテル業では、安心・安全で快適な施設、サービスの提供に向けて、更なる努力を続けてまいります。宿泊部門では、徐々に回復している外国人宿泊客の獲得と、募集团体や修学旅行の団体獲得、個人旅行では、インターネット予約のきめ細かな対応と同時に、旅行会社を中心にNHK大河ドラマ「平清盛」に絡めた新規プランを提案し、宿泊稼働率の向上を図ってまいります。また、宴会部門では、新しい婚礼パックの販売と、ミニ婚礼相談会の開催、各種宴会プランやイベント商品の販売拡大により、より多くの利用客の確保に努めてまいります。

ボウリング業では、引き続き固定客の獲得を図るため、ボウリング教室を充実させ、リーグボウラーへの営業展開を図り、来場者の回復に努めてまいります。

ゴルフ業では、「広島中央フライトロード」の開通により増加した入場者数を維持・拡充するため、コース整備の充実に努め、一年会員の確保および新規獲得を目指し、積極的な営業活動を行うとともに、来場者の満足度の向上に努めてまいります。

## 4 【事業等のリスク】

当社グループの事業等に関するリスク要因には様々なものがありますが、当社グループの事業等に特有かつ重要と思われるリスク要因としては以下のものが想定されます。これらのリスクについては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において認識したものであります。

## (1)全業種に共通する事項

### 所有固定資産について

当社グループが所有する固定資産のうち、市場価額の著しい下落、経営環境の著しい悪化などにより、減損損失を認識すべきであると判定される資産が発生した場合には、当該固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額いたします。その場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 金利の変動について

当社グループでは設備投資の所要資金等として多額の有利子負債を抱えており、今後の経済情勢の変化により金利が上昇し金利負担が増大した場合には、業績および財務状態に影響を及ぼす可能性があります。

### 投融資について

当社グループが投資または融資を行っている先の企業が、著しく業績を悪化させた場合、保有する有価証券の評価損や売却損ならびに貸付金の貸倒れおよび債務保証に伴う損失などが発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 退職給付債務および費用

当社従業員の退職給付費用および債務は、主に割引率、期待運用収益率等の数理計算によって算出されておりますが、経済情勢の変化などによりこれらの前提条件が変更された場合や、確定給付企業年金資産の運用状況の悪化などがあつた場合は、数理計算上の差異としてそれ以降の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 法的規制・法令改正への対応について

当社グループの事業は、鉄道事業法、道路運送法、建築基準法等の各種法令の適用を受けており、事業運営上、これらの法令による規制を受けるほか、法令の改正などの動向によっては、目標値や規制の達成・準拠のための設備投資などが必要となり、多額の資金需要と償却負担が発生する可能性があります。

### 情報システムについて

当社グループが、商品の受発注、計数管理、顧客データ管理等の様々な業務分野で所有・使用しているコンピュータシステムに、コンピュータウイルスの感染や外部からの不正アクセスなどにより重大な機能障害、データの流出等が発生した場合、当社グループの事業運営に大きな影響を及ぼす可能性があります。

### 営業拠点および経営資源の集中について

当社グループの営業地域は主に広島県西部地域であり、営業拠点・施設は広島市とその近郊に集中しております。そのため、当該地域における消費動向や、人口の増減、地価の変動などは、当社グループの収益に影響を及ぼすほか、同地域において、地震等の大規模な自然災害や、伝染病の蔓延、テロなどの不測の事態が発生し、事業の継続に支障をきたした場合、当社グループの業績に多大な影響を及ぼす可能性があります。

## (2)運輸業

### 運賃の設定または変更について

鉄軌道事業および自動車事業の運賃は、その上限について国土交通大臣の認可を受けることとなっております。上限の範囲内での変更については事前の届出で実施できますが、範囲を超える変更については国土交通大臣の認可を必要とします。このため、必要に応じた運賃の変更を機動的に実施できない場合には、当社グループの収益に影響を及ぼす可能性があります。



#### 乗合バス事業の規制緩和について

自動車事業においては、需給調整規制の廃止を柱とする乗合バス事業の規制緩和が実施されております。これにより、新規事業者の参入や、既存事業者を含めた値下げ競争が発生するなどして、収益性が低下する可能性があります。

#### 電気動力費・燃料油脂費について

鉄軌道事業における電気動力費や、自動車事業・海上運送業における燃料油脂費は、為替相場や原油価格の動向により変動しており、世界情勢の変化などによりこれらの価格が上昇した場合には、電気動力費・燃料油脂費の負担が増加します。

#### 少子高齢化の進行について

少子高齢化の進行による就業・就学人口の減少は、通勤・通学客輸送が中心の鉄軌道事業および自動車事業の収益を減少させる要因となります。

#### 事業用車両・設備の安全上の問題について

当社グループの事業用車両等（電車、バス、船舶、索道、各種事業用設備など）に、製造業者に起因する安全上の欠陥が発生した場合、製造業者による回収・点検などの措置にかかる期間中、運行および営業に支障をきたし、収益に影響を及ぼす可能性があります。

#### 治安悪化・テロ・災害等の影響について

国内外の治安の悪化や、テロ、大規模な自然災害の発生などにより、旅行者が著しく減少し、航空輸送需要が大幅に減少した場合、航空運送代理業の業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 災害・事故について

運輸業においては、安全性の確保を最優先に取り組んでおりますが、自然災害などに起因する設備等の被害や、人為的要因を含むさまざまな原因に基づく、大規模な事故が発生した場合、運行の停止による減収や、復旧・損害賠償などに係る費用が発生し、さらに、そのことが当社グループへの信頼の失墜につながり、今後の営業活動に多大な影響を及ぼす可能性があります。

また、同業他社における事故が、当社グループの営業活動に影響を及ぼしたり、事故対策に係る設備投資や費用を増加させたりする可能性があります。

### (3)流通業

#### 競合店の進出について

当社グループの営業地域には、近年大型商業施設やスーパーマーケットの進出が続いております。今後も、競合店の立地によっては、当社グループの店舗への来客数の減少や低価格競争の激化による収益性の低下を招き、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 食品安全上の問題について

当社グループの経営するスーパーマーケットは生鮮食料品を中心とする商品構成のため、BSE、新型インフルエンザ等の疫病や野菜の農薬残留問題など、食品製造業者に起因する食品安全上の問題が発生した場合に、消費者の買い控えなどが発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4)不動産業

##### 住宅・オフィスビル等の需給について

当社グループの営業地域では、大規模住宅団地の開発・販売や、マンションの建設が相次いでおり、住宅供給が過剰となった場合、当社グループが所有する物件の販売数の減少や販売価格の下落が売上高や利益率に影響を与える可能性があります。

また、企業や団体の合理化策としての事務所・店舗の統廃合が行われる一方で、オフィスビルの新規建設が相次いでおり、需給の不均衡が進んだ場合、当社グループが所有する賃貸物件の入居率や賃料の維持が困難となる可能性があります。

##### 販売用不動産について

当社グループが所有する販売用不動産のうち、不動産開発事業を取り巻く環境の変化ならびに計画（用地の買収計画、造成建築計画、販売計画、資金計画等）の変更などに起因し、時価（正味実現可能価額）が取得価額を下回る資産が発生した場合には、評価減が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5)建設業

##### 業績の大きな変動について

建設業における工事では、景気変動に伴う民間設備投資の動向や、国・地方自治体などの財政状況の変化に伴う公共工事の動向によって、業績が大きく変動する可能性があります。

#### (6)レジャー・サービス業

##### 同種の施設の進出について

当社グループの営業地域には、レジャー施設やホテルなどの進出が続いており、現在計画中のものもあります。また、近年、レジャーの多様化や低価格志向が定着しており、競合店の立地や施設の内容などによっては、当社グループの同種の施設への来客数の減少や、低価格競争の激化による収益性の低下を招き、業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたっては、「第5 経理の状況」「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、棚卸資産の評価、投資の減損および退職給付債務などを、過去の実績や現在の状況ならびに今後の見通しに応じて合理的な方法で処理しておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果と異なる場合があります。

### (2)財政状態の分析

当連結会計年度の財政状態について、総資産は、当社の広島トランヴェールビルディング竣工等により「有形固定資産」が3,736百万円増加し、期末において芸陽バス(株)を新たに連結したことに伴う受入資産1,397百万円の増加等により、前連結会計年度末と比較して5,164百万円増加の90,041百万円となりました。負債は、税制改正に伴う法定実効税率の変更により、「再評価に係る繰延税金負債」が1,653百万円減少したものの、広島トランヴェールビルディング建築代金等の「未払金」が3,640百万円増加したことや、芸陽バス(株)を新たに連結したことに伴う受入負債718百万円の増加等により、前連結会計年度末と比較して2,268百万円増加の57,520百万円となりました。純資産は、「利益剰余金」が1,123百万円増加し、法定実効税率の変更により、「土地再評価差額金」が1,646百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して2,896百万円増加の32,520百万円となり、自己資本比率は1.2ポイント上昇の35.4%となりました。

### (3)経営成績の分析

#### 営業収益および営業利益の状況

当連結会計年度の営業収益は、不動産業において「宇品グリーンアベニュー御幸の杜」宅地販売がほぼ完売に近づいたため減収となったものの、電車・バスをはじめとした主力の運輸業をはじめ、マダムジョイ楽々園店への大手家電量販店の誘致が寄与した流通業や建設業が増収となり、前連結会計年度と比較して2.3%増加し、36,370百万円となりました。

また、営業利益は、不動産業の減収や運輸業における原油価格の高騰による燃料費の増加、当社の電車事業におけるの安全性向上のための設備改善に係る修繕費の増加などにより、前連結会計年度と比較して5.4%減少し、1,333百万円となりました。

なお、セグメント別の営業収益および営業利益の概況については「1 業績等の概要」におきましても記載しております。

#### 経常利益の状況

営業外収益では、持分法による投資利益が若干減少したものの、営業外費用では、金利の低下に伴う支払利息の減少や金融組成費用の減少により、営業外収益から営業外費用を差し引いた純額は、前連結会計年度477百万円の費用計上に対し、当連結会計年度は、363百万円の費用計上となりました。

この結果、経常利益は、前連結会計年度と比較して4.2%増加し、970百万円となりました。

#### 当期純利益の状況

株式の追加取得により持分法適用関連会社である芸陽バス(株)を連結子会社化したことに伴い、特別利益には「負ののれん発生益」を計上し、特別損失には「段階取得に係る差損」を計上しております。また、レジャー・サービス業の固定資産の一部につき減損損失を計上したことや、平成24年4月1日に呉市交通局よりバス事業を承継するための「受入準備費用」の計上等により、特別利益から特別損失を差し引いた純額は、前連結会計年度の742百万円の利益計上に対し、当連結会計年度は554百万円の利益計上となりました。

このほかに、当社において、課税所得の計算上、棚卸資産の評価方法に低価法を採用したことに伴い、重要な損金算入項目が発生したことにより、法人税等の負担が減少しております。

以上の結果、当期純利益は、前連結会計年度と比較して46.5%増加し、1,271百万円となりました。

#### (4) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

##### (設備投資)

当連結会計年度において、当社並びに連結子会社は、運輸業を中心に5,768百万円の設備投資を行いました。

セグメントの設備投資額は次のとおりであります。

	当連結会計年度	対前期増減率
運輸業	2,215百万円	111.39%
流通業	136	86.75
不動産業	3,416	59.73
建設業	6	63.91
レジャー・サービス業	42	46.79
計	5,816	36.89
消去又は全社	48	
合計	5,768	37.03

各セグメントの主な設備投資の内容は次のとおりであります。

##### (運輸業)

自動車事業車両購入(60両)	1,127百万円
自動車事業呉エリア新営業所整備	646
宇品二丁目折り返し自動化	77
千田変電所3号変成器更新	41

##### (流通業)

楽々園店舗銀行棟新設	99百万円
------------	-------

##### (不動産業)

広島トランヴェールビルディング竣工	3,251百万円
-------------------	----------

##### (レジャー・サービス業)

ホテル電話交換機代替	14百万円
ホテル非常階段腐食防止塗装工事	4

##### (主要な設備の除却)

該当する事項はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)の平成24年3月31日現在におけるセグメントごとの設備の概要、帳簿価額並びに従業員数は次のとおりであります。

### (1) セグメント総括表

セグメントの名称	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
	建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	建設仮勘定	工具・器具・ 備品	合計	
運輸業	3,628	3,990	17,034 (388,994.21)	338	8	141	25,141	1,672 (169)
流通業	2,279	2	( )	94		60	2,436	151 (340)
不動産業	9,911	242	24,745 (218,419.37)	1		72	34,971	109 ( )
建設業	172	2	622 (1,090.29)			1	798	44 ( )
レジャー・サービス業	1,799	24	853 (1,252,294.00)	43		24	2,744	77 (53)
小計	17,789	4,261	43,255 (1,860,797.87)	477	8	299	66,093	2,053 (562)
消去又は全社	506	5	225 ( )			4	743	
計	17,282	4,255	43,029 (1,860,797.87)	477	8	295	65,350	2,053 (562)

(注) 従業員数欄の( )内は臨時従業員の年間平均雇用人員であり、外書により表示しております。

### (2) 提出会社

#### 総括表

セグメントの名称	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
	建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	建設仮勘定	工具・器具・ 備品	合計	
運輸業	3,302	3,301	16,034 (324,759.96)	182	8	104	22,934	1,166 (146)
不動産業	8,270	233	23,329 (208,088.26)			71	31,905	104 (10)
計	11,572	3,535	39,363 (532,848.22)	182	8	176	54,839	1,270 (156)

(注) 従業員数欄の( )内は臨時従業員の年間平均雇用人員であり、外書により表示しております。

運輸業

ア 鉄軌道事業

a 線路及び電路施設

線別	区間	単線・複線の別	営業キロ (Km)	駅数 (ヶ所)	変電所数 (ヶ所)
鉄道線 宮島線	広電西広島(己斐)～広電宮島口	複線	16.1	21	3
軌道線 本線	広島駅～広電西広島(己斐)	複線	5.4	19	2
宇品線	紙屋町東～広島港(宇品)	〃	5.9	19	2
横川線	十日市町～横川駅	〃	1.4	5	
江波線	土橋～江波	〃	2.6	6	
皆実線	的場町～皆実町六丁目	〃	2.5	7	1
白島線	八丁堀～白島	〃	1.2	5	
鉄軌道合計			35.1	82	8

(注) 各線の軌間は1.435m、電圧はD C 600Vであります。

b 車両

電動客車 (両)	付随客車 (両)	制御客車 (両)	電気機関車 (両)	計 (両)
196	106			302

c 車庫及び工場

事業所名	所在地	建物	土地	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)
千田車庫	広島市中区東千田町	193	10,033.66	1,516
江波車庫	広島市中区江波西	10	5,759.15 (149.90)	599
荒手車庫	広島市西区草津南	62	14,025.96	273
その他		649	198,104.46 (477.70)	4,006
計		916	227,923.23 (627.60)	6,396

(注) ( )内は、貸借中のもので、外書により表示しております。

イ 自動車事業

事業所名	所在地	建物	土地		在籍車両数		
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	乗合 (両)	貸切 (両)	計 (両)
曙営業所	広島市東区曙	14	4,495.35	1,319	46 (3)	1	47 (3)
江波営業所	広島市中区江波西	50	8,567.54 (773.94)	870	59	1 (1)	60 (1)
仁保営業所	広島市南区仁保沖町	36	3,191.23	280	51	1	52
広島南営業所	広島市中区西白島町	9	6,636.26	1,691	83	1	84
熊野営業所	広島県安芸郡熊野町	23	4,232.77	165	22	1	23
廿日市営業所	廿日市市宮園上	1	4,050.00	224	25 (3)	1	26 (3)
広島北営業所	広島市西区小河内町	40	10,728.03	2,104	102	1	103
吉田出張所	安芸高田市吉田町	2	3,514.65 (52.89)	71	12		12
安佐出張所	広島市安佐北区安佐町	8	(3,313.73)		16		16
その他		228	51,420.90 (7,457.61)	2,910	10		10
計		416	96,836.73 (11,598.17)	9,638	426 (6)	7 (1)	433 (7)

(注) ( )内は、賃借中のもので、外書により表示しております。



不動産業

名称又は賃貸先	所在地	建物	土地	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)
第二広電ビル用地	広島市中区八丁堀		929.65	824
(株)ヒロデンプラザ	広島市中区平野町	8	6,785.05	1,633
(株)ホテルニューヒロデン	広島市南区大須賀町		1,342.18	335
(株)広電ストア (ファミリータウン)(店舗施設)	広島市佐伯区楽々園	123	37,868.05	4,070
(株)広電ストア (マダムジョイ千田店)(店舗施設)	広島市中区東千田町	309	4,659.94	1,003
(株)広電ストア (マダムジョイ江波店)(店舗施設)	広島市中区江波西	334	5,371.87	545
(株)広電ストア (マダムジョイ己斐店)(店舗施設)	広島市西区己斐本町	179	799.85	128
(株)広電宮島ガーデン	廿日市市宮島口	0	12,427.22	1,638
宮島競艇施行組合	廿日市市宮島口		19,174.08	1,342
広電タワービル	広島市中区東千田町	227	2,070.90	313
広電第2タワービル	広島市中区東千田町	17		
広電平野ビル	広島市中区平野町	12	1,748.64	413
阿品台店舗	廿日市市地御前	27	2,059.16	181
毘沙門台店舗	広島市安佐南区毘沙門台	15	1,506.35	141
南竹屋町店舗	広島市中区南竹屋町	29	1,599.73	474
立町立体駐車場施設	広島市中区立町	42	187.24	175
広電袋町電停前ビル	広島市中区大手町	296	283.68	355
広島トランヴェールビル	広島市中区紙屋町	3,581	1,329.31	1,378
宇品御幸店舗用地	広島市南区宇品御幸		6,987.14	537
その他		2,875	100,958.22 (69,046.58)	7,836
計		8,080	208,088.26 (69,046.58)	23,329

(注) 1 は広電タワービルに含まれております。  
 2 ( )内は、賃借中のもので、外書により表示しております。

(3) 国内子会社

運輸業(従業員数506人)

ア 自動車事業

会社名・事業所名	所在地	建物	土地		在籍車両数		
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	乗合 (両)	貸切 (両)	計 (両)
(備北交通株)							
本社及び庄原営業所(注)4	庄原市東本町	8	4,648.49	30	38	2	40
三次営業所	三次市東酒屋	12	4,685.00	86	13	7	20
三次観光センター	三次市十日市東	15	2,572.16	102			
東城出張所	庄原市東城町	27	225.05	0	7		7
吉田営業所(注)2	安芸高田市吉田町	0			15		15
(エイチ・ディー西広島株)							
本社及び己斐上車庫(注)3	広島市西区己斐上	24			28	5	33
(芸陽バス株)							
本社及び西条営業所(注)4	東広島市西条西本町	21	7,990.03	7	35	6	41
瀬野川営業所	広島市安芸区中野東	10	4,637.04	330	32	5	37
竹原営業所	竹原市中央	2	2,338.21	26	20	3	23
三原営業所	三原市古浜	20	3,536.64	104	22	1	23
豊栄営業所	東広島市豊栄町	8	5,302.83	84	12	3	15

(注) 1 ( )内は、連結会社以外から賃借中のもので、外書により表示しております。

2 建物の一部及び土地は、広島電鉄株より賃借中であり、(2) イに含まれております。

3 土地は広島電鉄株より賃借中であり、(2) イに含まれております。

4 特定旅客車両を乗合に含んでおります。

イ 索道業

会社名・事業所名	所在地	運行区間	営業キロ (Km)	在籍車両数 (両)
広島観光開発株	廿日市市宮島町	紅葉谷駅～榎谷駅～獅子岩駅	1.7	24

ウ 海上運送業

会社名・事業所名	所在地	運航区間	営業キロ (Km)	在籍船舶数 (隻)
宮島松大汽船株	廿日市市宮島町	宮島口港～巖島港	2.0	5

流通業(従業員数151人)

会社名・事業所名	所在地	建物	土地	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)
(株)広電ストア)				
マダムジョイ己斐店 (注) 4	広島市西区己斐本町	7		
ファミリータウン (注) 4	広島市佐伯区楽々園	1,528		
マダムジョイアルパーク店	広島市西区草津新町	0		
店舗用施設	広島県安芸郡熊野町	250 〔250〕	(14,311.70) 〔14,311.70〕	
マダムジョイ千田店 (注) 4	広島市中区東千田町	2		
マダムジョイ江波店 (注) 4	広島市中区江波西	1		
(株)広電宮島ガーデン)				
宮島口店(もみじ本陣) (注) 3	廿日市市宮島口	216		
宮島サービスエリア	廿日市市上平良	72		
下松サービスエリア	下松市切山	83		

- (注) 1 ( )内は、連結会社以外から賃借中のもので、外書により表示しております。  
 2 [ ]内は、連結会社以外へ賃貸中のもので、内書により表示しております。  
 3 土地は、広島電鉄(株)より賃借中であり、(2) に含まれております。  
 4 土地及びこの他に建物を広島電鉄(株)より賃借中であり、(2) に含まれております。

不動産業(従業員数5人)

会社名・事業所名	所在地	建物	土地	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)
(広電不動産株)				
第二広電ビル (注) 2	広島市中区八丁堀	221 [ 221 ]		
広電楽々園駅ビル (注) 2	広島市佐伯区楽々園	113 [ 113 ]		
広電三井住友海上ビル (注) 3	広島市中区西十日市町	940 [ 930 ]	170.11	323
広島トランヴェールビル用地 (注) 4	広島市中区紙屋町		672.46	377
広電紙屋町パーキングビル	広島市中区紙屋町	7	148.09	43
(広電興産株)				
商工センター 車庫用施設	広島市西区草津港	17 [ 17 ]	5,000.00 [ 5,000.00 ]	202 [ 202 ]
広電三井住友海上ビル用地 (注) 5	広島市中区西十日市町		2,273.71	25
江波車庫用施設	広島市中区江波南	4 [ 4 ]	1,417.20 [ 1,417.20 ]	247 [ 247 ]
(株交通会館)				
交通会館ビル	広島市東区上大須賀町	310 [ 310 ]	649.55 [ 649.55 ]	156 [ 156 ]

(注) 1 [ ] 内は、連結会社以外へ賃貸中のもので、内書により表示しております。

2 ビル用地は、広島電鉄株より賃貸中であり、(2) に含まれております。

3 ビル用地は、この他に広電興産株より一部賃貸中であります。

4 広島電鉄株他に対し賃貸中であります。

5 広電不動産株に対し賃貸中であります。

建設業(従業員数44人)

会社名・事業所名	所在地	建物	土地	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)
(広電建設株)				
五日市事務所	広島市佐伯区五日市中央	171 [ 149 ]	1,090.29	622

(注) [ ] 内は、連結会社以外へ賃貸中のもので、内書により表示しております。

レジャー・サービス業(従業員数77人)

ア ホテル業

会社名・事業所名	所在地	建物	土地		客室	
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	室数 (室)	収容人員 (人)
(株)ホテルニューヒロデン	広島市南区大須賀町	1,197	(914.24)		256	392

(注) 1 ( )内は、連結会社以外から賃借中のもので、外書により表示しております。

2 ホテル用地については、この他に広島電鉄(株)より一部賃借中であり、(2) に含まれております。

イ ゴルフ業

会社名・事業所名	所在地	土地		トータルヤード数	
		面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	REGULAR	BACK
(株)グリーンバース・ヒロデン	三原市大和町	1,252,294.00	853	6,314(Y)	6,915(Y)

ウ その他

会社名・事業所名	所在地	建物	土地		機械装置・ 運搬具
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)
(株)ヒロデンプラザ					
広電ボウル (注) 2	広島市中区平野町	274			0
広電ゴルフ	広島市東区東山町	100	(19,720.10)		0
ビバーチャ (注) 3、4	広島市中区南竹屋町	114 [ 114 ]			

(注) 1 ( )内は、連結会社以外から賃借中のもので、外書により表示しております。

2 ボウリング場用地については、広島電鉄(株)より賃借中であり、(2) に含まれております。

3 施設用地については、広島電鉄(株)より賃借中であり、(2) に含まれております。

4 [ ]内は、連結会社以外へ賃貸中のもので、内書により表示しております。

(4) 在外子会社

該当会社はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	件名	セグメント の名称	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
広島電鉄株	広電廿日市駅通線工事	運輸業	356	8	自己資金 借入金 補助金	平成23年 8月	平成25年 3月
広島電鉄株	宮島線ロケーションシステム更新	運輸業	160		自己資金 借入金 補助金	平成24年 12月	平成25年 1月
広島電鉄株	国産超低床電車（2編成）	運輸業	540		自己資金 借入金 補助金	平成25年 1月	平成25年 2月
広島電鉄株	本通電停改良工事	運輸業	113		自己資金 借入金 補助金	平成25年 1月	平成25年 2月
広島電鉄株	自動車事業車両購入（54両）	運輸業	1,005		自己資金 借入金 補助金	平成24年 8月	平成25年 3月
芸陽バス株	自動車事業車両購入（9両）	運輸業	169		自己資金 借入金 補助金	平成24年 8月	平成25年 2月

(2) 重要な設備の除却等

該当する事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	240,000,000
計	240,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	60,891,000	60,891,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であり ます。
計	60,891,000	60,891,000		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成17年11月18日 (注) 1	40,594,000	60,891,000		2,335		1,971

(注) 1 平成17年8月22日開催の取締役会決議により、平成17年11月18日付で1株を3株に株式分割いたしました。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)		25	3	56	4	0	3,385	3,473	
所有株式数 (単元)		11,608	85	11,952	17	0	37,132	60,794	97,000
所有株式数 の割合(%)		19.09	0.14	19.66	0.03	-	61.08	100.00	

(注) 1 自己株式128,001株は「個人その他」に128単元、「単元未満株式の状況」に1株含まれております。

2 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が8単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町1丁目3 8	2,088	3.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7 1	1,755	2.88
広島日野自動車株式会社	広島県安芸郡坂町北新地1丁目2 5 9	1,591	2.61
みずほ信託銀行株式会社 退職 給付信託 五洋建設口	東京都中央区晴海1丁目8 1 2晴海ア 일랜드トリトンスクエアオフィスタ ワーZ棟	1,515	2.49
出光興産株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目1 1	1,500	2.46
株式会社鴻治組	大阪市北区西天満2丁目8 5	1,403	2.30
広島ガス株式会社	広島市南区皆実町2丁目7 1	1,236	2.03
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川2丁目2 7 2	1,170	1.92
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関3丁目7 3	809	1.33
野村信託銀行株式会社(退職給 付信託・三菱UFJ信託銀行 口)	東京都千代田区大手町2丁目2 2	750	1.23
日野自動車株式会社	東京都日野市日野台3丁目1 1	750	1.23
計		14,567	23.92

(注) 株式会社広島銀行の持株数には、株式会社広島銀行が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式

1,605千株(持株比率2.6%)を含んでおります(株主名簿上の名義は「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 広島銀行口」であります)。なお、当該株式は、信託約款の定めにより株式会社広島銀行が議決権を留保して  
 おります。



(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 128,000 (相互保有株式) 普通株式 168,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,498,000	60,498	
単元未満株式	普通株式 97,000		
発行済株式総数	60,891,000		
総株主の議決権		60,498	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、広島観光開発株式会社所有の相互保有株式942株及び当社所有の自己株式1株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 広島電鉄株式会社	広島市中区東千田町二丁目 9番29号	128,000		128,000	0.21
(相互保有株式) 広島観光開発株式会社	広島市中区東千田町二丁目 9番29号	168,000		168,000	0.28
計		296,000		296,000	0.49

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	1,019	0
当期間における取得自己株式	831	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	128,001		128,832	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増し請求による売渡しによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

利益配分につきましては、当社は運輸業を中心とする公共性の高い業種であり、安全性の確保を最優先としつつ、業績の推移や将来のための内部留保などを勘案しながら、最終的に安定した配当を継続して実施できることを利益配分に対する基本方針としております。

内部留保につきましては、安全輸送のための投資はもとより、ノンステップバスやCNGバスの購入など、バリアフリーや環境に配慮した車両への投資や、「広島紙屋町プロジェクト」の推進による不動産賃貸事業の収入基盤の拡充に向けた投資などにも活用して、経営基盤の強化を図るとともに、中長期的な業績の動向を勘案しながら、株主の皆様に対する利益還元につきましても充実させるべく努めてまいります。

当期の配当につきましては、安定配当継続の基本方針を踏まえ、業績の推移、将来の内部留保などを勘案した結果、普通配当1株当たり2円50銭に、電車開業100周年、会社設立70周年を記念しまして、1株当たり1円00銭の記念配当を加え、1株当たり3円50銭といたします。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月28日 定時株主総会決議	212	3.50

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	390	352	351	353	359
最低(円)	300	310	315	324	330

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月
最高(円)	339	342	342	341	350	359
最低(円)	334	336	332	336	337	340

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 代表取締役		越 智 秀 信	昭和32年3月31日生	昭和55年4月 運輸省入省 平成16年7月 国土交通省政策統括官付政策調整官 平成18年7月 国土交通省大臣官房参事官(総合政策局総務課国際企画室長併任) 平成21年6月 当社常務取締役 平成21年6月 株式会社広電ストア取締役(現在) 平成21年10月 広電観光株式会社代表取締役会長(現在) 平成22年6月 広電建設株式会社取締役会長(現在) 平成22年6月 当社代表取締役社長(現在) 平成23年6月 株式会社広電宮島ガーデン代表取締役社長(現在) 平成23年6月 宮島松大汽船株式会社代表取締役社長(現在) 平成23年6月 株式会社ホテルニューヒロデン代表取締役社長(現在) 平成23年11月 広電興産株式会社代表取締役社長(現在) 平成23年11月 株式会社交通会館代表取締役社長(現在) 平成24年6月 広電不動産株式会社取締役(現在)	(注)3	1
専務取締役	電車開業100周年 記念事業担当 アウトソーシング 推進担当 呉バスカンパニー 担当	椋 田 昌 夫	昭和21年11月24日生	昭和44年3月 当社入社 平成15年6月 当社取締役M・Sカンパニープレジデント 平成20年6月 当社常務取締役 平成22年6月 当社専務取締役(現在) 平成24年6月 株式会社広電ストア代表取締役会長(現在)	(注)3	32
取締役	不動産カンパニー プレジデント	名 越 元	昭和22年5月29日生	昭和47年3月 当社入社 平成17年6月 当社取締役不動産カンパニープレジデント(現在) 平成24年6月 広電不動産株式会社代表取締役社長(現在)	(注)3	7
取締役	バスカンパニー プレジデント	岡 本 繁	昭和30年12月15日生	昭和54年3月 当社入社 平成20年6月 当社取締役バスカンパニープレジデント(現在) 平成23年11月 株式会社グリーンバズ・ヒロデン代表取締役社長(現在)	(注)3	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	M・Sカンパニー プレジデント	倉本 勇 治	昭和28年5月17日生	昭和52年3月 当社入社 平成20年6月 当社取締役M・Sカンパニーバイス プレジデント 平成22年6月 当社取締役M・Sカンパニープレジ デント(現在) 平成24年6月 広電不動産株式会社監査役(現在) 平成24年6月 株式会社広電ストア監査役(現在) 平成24年6月 広電建設株式会社監査役(現在)	(注)3	9
取締役	電車カンパニー プレジデント	藤元 秀 樹	昭和29年12月7日生	昭和54年3月 当社入社 平成20年6月 当社取締役電車カンパニーバイス プレジデント 平成23年6月 当社取締役電車カンパニープレジ デント(現在)	(注)3	7
取締役	総合企画担当	沼田 卓 壮	昭和23年1月3日生	昭和45年4月 祇園町採用 平成15年4月 広島市南区長 平成18年4月 広島市人事委員会事務局長 平成20年4月 財団法人広島勤労者職業福祉セン ター理事長 平成21年6月 当社取締役(現在)	(注)3	
取締役	経営政策担当 不動産カンパニー バイス プレジデント	田中 栄 治	昭和31年8月5日生	昭和56年3月 当社入社 平成20年6月 広電不動産株式会社取締役(現在) 平成22年6月 当社取締役M・Sカンパニーバイス プレジデント 平成24年1月 当社取締役不動産カンパニーバイス プレジデント(現在) 平成24年6月 株式会社ヒロデンブラザ代表取締役 社長(現在) 平成24年6月 広電建設株式会社取締役(現在)	(注)3	4
取締役		田村 興 造	昭和26年6月22日生	昭和56年3月 株式会社広島ガス入社 平成17年6月 同社執行役員原料部長 平成21年6月 同社取締役執行役員経営統括本部経 営企画部長 平成22年4月 同社代表取締役社長執行役員(現 在) 平成24年6月 当社取締役(現在)	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
常勤監査役		迫 孝 治	昭和24年 9月11日生	昭和47年 3月 平成10年 5月 平成16年 6月	当社入社 人材管理グループマネジャー 当社常勤監査役(現在)	(注) 4	17	
監査役		笠 井 久 雄	昭和21年 1月10日生	昭和61年 5月 平成13年 4月 平成13年 8月 平成14年 5月 平成18年 1月 平成23年 6月	大野町議会議員 佐伯郡町村議会議長会会長 広島県町村議会議長会副会長 大野町町長 宮島競艇施行組常務理事 当社監査役(現在)	(注) 5		
監査役		高 橋 徹	昭和22年 8月 6日生	昭和45年 4月 平成13年 6月 平成15年 6月 平成16年 4月 平成20年 6月 平成22年 6月 平成24年 6月	株式会社広島銀行入行 同行取締役総合企画部長 同行常務取締役 人事総務部長 同行常務取締役 人事総務部、資金証券部、リスク総括部 等 担当 ひろぎん保証㈱代表取締役社長 一般財団法人ひろぎん経済研究所 理事長 当社監査役(現在)	(注) 6		
計								90

- (注) 1 取締役 田村興造は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役 笠井久雄、高橋 徹は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 任期途中で辞任した監査役の後任監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 当社は、会社の重要な特定の業務を執行させる者として、取締役会において当該者を選任することにより、機動的な人的施策を実施できるように執行役員制度を導入しております。  
 執行役員は1名で、呉バスカンパニープレジデント飯井康裕であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制の状況

#### ア 企業統治に関する基本的な考え方

当社は、電車、バス、不動産の3事業を中心に企業経営を行っており、平成10年からは、経営環境の急速な変化に即応した事業展開と独立採算意識の徹底を目的として、電車、バス、不動産およびM・S（マネジメントアンドサポート：業務管理および支援）の4カンパニーからなるカンパニー制を採用しております。

また、企業全体としての経営の基本方針・基本計画の策定および調査・研究を行う経営政策グループ、交通政策の基本方針・基本計画の策定および調査・研究を行う総合企画グループの2グループをカンパニーから独立した部署として設置し、カンパニーを横断した統括業務を行うことにより、総合的な企業経営の実現に努めております。

平成24年3月26日からは、取締役会決議により、取締役に準ずる地位を有する重要な使用人として執行役員を選任し、代表取締役の指揮命令のもとで会社の重要な特定の業務を執行させることにより、業務の分担による事業活動の推進を図っております。

各カンパニーおよび経営政策グループ、総合企画グループの責任者は取締役または執行役員が務めており、意思決定の迅速化と業務執行の効率化を図っております。

さらに、内部監査業務については、各カンパニー・グループから独立した組織として、監査グループを設置し、会社法や金融商品取引法その他当社事業に関する法令に定める監査項目を中心に、内部監査を実施しております。

#### イ 企業統治の体制の概要およびその体制を採用する理由

当社では、監査役および監査役会は、取締役や取締役会から高い独立性を有していることや常勤監査役の設置により即応性の高い監査が可能であることなど、監査役および監査役会が有する特性を重視し、監査役制度を採用しております。

会社の経営上の意思決定機関としては、会社法に定められた取締役会のほか、取締役会で決定した経営の基本方針・基本計画に基づき、重要な業務の執行等について審議、決定する「経営会議」を設置しております。

取締役および監査役で構成される取締役会は、原則として毎月1回以上、取締役、執行役員および常勤監査役で構成される「経営会議」は、原則として毎週開催し、会社法に定める取締役相互による監督と監査役による監査のもとで、活発な議論により重要な業務執行に対する機動的な意思決定を行っております。

なお、経営会議には常勤監査役が出席し、重要な業務執行に対する意思決定の過程や経営に関する重要な報告事項を聴取することにより、取締役および執行役員の業務執行の適法性について監査しております。

#### ウ 内部統制システムの整備の状況

当社では、会社法に基づき取締役会で定めた「業務の執行を確保するために必要な体制の整備に関する基本方針」に従い、取締役、監査役および使用人が、各々適法・適正な職務の執行に努めております。

取締役の職務の執行においては、善管注意義務や忠実義務に基づく取締役の相互監督のもと、取締役会や経営会議での、それぞれの運営規程に基づき付議した議案の決定にあたっては、適法性・妥当性の有無をはじめとした総合的な観点から検討・決定するとともに、徹底した法令遵守のもとで、各々が職務を執行しております。

使用人の日常の職務の執行においても、各々が法令・定款はもとより社内規程を遵守し、会社組織として適法・適正に職務を執行することができるよう職務権限規程を定めております。また、決裁文書については

稟議手続規程を定め、重要性の高い案件の決裁権者を取締役社長とし、当該決裁文書を常勤監査役および内部監査部門である監査グループにも通知するなど、監査部門をも含めた内部統制体制を整備・運用することにより、職務執行に対する統制を図っております。

株主総会議事録、取締役会議事録および経営会議開催記録などの重要な意思決定を記録した文書については、法令および社内規程に基づき適法・適正に作成し、所管部署において適切に保存・管理しており、取締役会および経営会議で承認された議案書や決裁文書についても、各起案部署において適切に保存・管理しております。なお、平成24年4月1日からは、重要な文書の保存・管理について、その方法・年限等を定めた文書管理規程に基づき、保存・管理を行っております。

取締役会規程および経営会議規程その他の社内規程については、常に最新の法令に基づき改正を行い、取締役、監査役および使用人への周知徹底に努めております。なお、平成24年4月1日からは、社内規程の制定・改廃および周知について、その手続き等を定めた規程類等管理規程に基づき、制定・改廃および周知を行っております。

平成22年からは、経営政策グループに新たに法務チームを設け、重要な契約や重大な訴訟に対する社内体制を整備することにより、リスク予防も含めた内部統制システムの強化を図っております。

## エ リスク管理体制の整備の状況

全社的リスクや緊急対応を要するリスクが発生した場合には、代表取締役社長がリスク対応統括責任者として各取締役を指揮し、各取締役はリスク対応統括責任者のもと、担当部門を指揮することにより、リスク発生による損害を最小限に止めるよう努めております。

電車・バス事業におけるリスクについては、第一の使命である安全運行を確保するため、発生が予想されるリスクを抽出するとともに、リスク発生時における対応を迅速かつ的確に行うため、平成18年に安全管理規程を電車・バスの各部門で制定しており、各部門の指導・教育担当部署が社員（業務従事者）に対し、定期的にリスクの発生の回避およびリスク発生時の迅速かつ的確な対応の実行等についての指導・教育を行っております。

不動産事業におけるリスクについては、土地・建物の賃貸・販売および保有により発生が予想されるリスクを抽出し、予めリスク発生時における迅速かつ的確な対応を検討することによって、リスクの発生の回避およびリスク発生時の損害を最小限に止めるよう努めております。

当社が行う事業における新たな事業機会の検討・実施にあたっては、想定されるリスクについて、適宜外部の専門家の意見・助言を取り入れながら十分な検討を行い、事業の実施にあたっては、想定されるリスクを排除、またはでき得る限り縮小させたうえで実施しております。

なお、業務執行の過程におけるリスクの発生を回避するため、法律上の判断を要する場合には顧問弁護士に、会計上の判断を要する場合には会計監査人に適宜相談を行いながら、得られた助言や提案をもとに、適法・適正な業務の執行に努めております。

## オ 責任限定契約の内容の概要

当社は、平成24年6月開催の定時株主総会において、社外取締役および社外監査役との間で、会社法第427条第1項の定めに基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨の定款変更を決議しました。なお、同総会で選任された社外取締役および社外監査役ならびに在任中の社外監査役との間で責任限定契約を締結する予定としております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役および社外監査役ともに、法令が定める額としております。また、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の執行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。



## 内部監査および監査役監査の状況

### ア 監査体制（組織、人員および手続）の状況

内部監査については、監査役会の補助スタッフとしての役割も兼ねた監査部署として監査グループを設けております。

監査グループは、各カンパニーから独立した代表取締役直属の組織としており、8名の人員を配置し、各部署における適正な実務処理の実施状況の確認をはじめ、現金・乗車券類の管理状況や各種証憑類の発行・保管状況等に対する実査を、年2回または4回（回数は業務担当部署により異なる）の頻度で行っております。

監査役監査については、2名の社外監査役を含めた3名を監査役に選任しており、監査体制の中立性と独立性を確保しております。

監査役監査の実施にあたっては、「社内・外の情勢を踏まえ、当社経営の健全化を維持し、信頼性を確保する」ことを監査の基本方針とし、特に「当社および関係会社における全社的な内部統制システムの整備・運用状況、財務報告に係る内部統制の整備・運用状況の有効性、経営リスク管理のための諸施策の検討・実施状況、コンプライアンス体制の整備・定着状況、経営総合5ヵ年計画『MCAプラン2012』の遂行状況」を主たる監査項目として掲げ、取締役会、経営会議その他の重要な会議に出席して経営上の重要な意思決定の過程について聴取するほか、随時、取締役および執行役員に対し職務の執行状況を聴取しております。

監査役が行う年2回の定期監査では、課長・チームリーダーおよびグループマネージャーへのヒアリングを実施し、日常における使用人の職務執行について詳細な聴取を行うとともに、定期監査終了後には、監査結果の報告と取締役および執行役員の職務執行状況についてのヒアリングを行う目的で、各取締役および執行役員との情報交換会を実施しております。また、代表取締役社長とは、年2回、監査役監査の結果説明をはじめ、会社が対処すべき課題や監査上の重要課題、監査役監査の環境整備の状況等に関する意見交換を行う会合を実施しております。

関係会社に対する監査役監査については、主要な関係会社に対する期末監査のほか、期中に往査を実施し、適宜営業状況をはじめ、取締役、使用人の職務執行の状況や財産の保全管理等に対するヒアリングを行うなど、厳正な監査の実施に努めております。

### イ 監査の相互連携および監査と内部統制部門との関係

内部監査部門である監査グループでは、監査役による課長・チームリーダーおよびグループマネージャーに対するヒアリングへの監査グループ所属員の同席や関係会社に対する監査役往査への監査グループ所属員の同行などをはじめとして、社内規程に基づき、監査役監査の補助業務を行っております。また、内部監査結果については、社外監査役を含めた全ての監査役へ監査結果を報告しており、適法・適正かつ効率的な監査を行うため、監査グループと監査役とが相互に連携を図っております。

監査役と会計監査人との連携については、監査役は、会計監査人から財務諸表監査、内部統制監査の実施状況について適宜報告を受け、相互に意見交換を行っており、当社および関係会社の経営・財務状況に対する会計認識等の共有化により、効率的な監査を実施しております。

内部統制の統括・推進部署である経営政策グループと監査の関係については、経営政策グループは、他部署と同様に監査グループによる内部監査や監査役によるヒアリングを受ける一方、主要な関係会社への往査について監査役および監査グループと共同してヒアリングを行うなど、監査部門と内部統制統括・推進部門とが相互に協力して、関係会社を含めた内部統制の整備・運用を推進しております。

### 社外役員（社外取締役・社外監査役）の状況

## ア 社外役員の人員および当社との利害関係

当社では、社外役員として、監査役3名のうち社外監査役を2名選任しており、当該監査役と当社との間には、いずれも利害関係はありません。なお、当該監査役のうち1名の辞任により、平成24年6月開催の定時株主総会決議をもって選任した社外監査役は、当社の主たる取引金融機関の取締役に就任していた者であり、また、当該監査役と当社との間には利害関係はありません。

また、社外監査役のうち1名は、株式会社東京証券取引所有価証券上場規程および施行規則に定める独立役員に指定しております。

社外取締役については、当社では選任しておりませんでした。平成24年6月開催の定時株主総会決議をもって新たに社外取締役に1名選任しております。当該取締役は、ガス事業会社の代表取締役であり、また、当該取締役と当社との間には利害関係はありません。

## イ 社外役員の機能・役割および選任状況に関する考え方

社外役員の企業統治において果たす機能・役割については、当該役員が社外での豊富な経験と幅広い知見に基づいた中立的・客観的な立場に基づく意見・助言等を行うことにより、企業経営における透明性・公正性を確保し、一般株主の利益に配慮しつつ、持続的な企業経営および企業価値の増大を実現させることをもって、企業としての社会的責任を果たすことであるとの認識のもと、当社では、社外監査役については、会社法の定めに従い、監査役3名のうち2名を選任しております。なお、社外取締役については、これまでは選任しておりませんでした。平成24年6月開催の定時株主総会決議をもって取締役9名のうち1名を選任し、企業統治体制の強化・充実を図っております。

## ウ 社外監査役と監査との相互連携および社外監査役と内部統制部門との関係

当社では、社外役員を選任するための独立性に関する基準・方針について、社内規程（規程類等管理規程）に基づく基準は定めておりませんが、社外役員を選任するにあたっての判断は、会社法施行規則に定める社外取締役および社外監査役に関する事項、株式会社東京証券取引所有価証券上場規程および施行規則に定める独立役員に関する事項を各々参考として、社外役員が監督・監査機能を発揮するために必要となる経験などを含め、当該役員に期待する機能・役割を個別に検討して社外役員を選任することとしております。

## エ 社外監査役と監査との相互連携および社外監査役と内部統制部門との関係

社外監査役と常勤監査役および内部監査部門との連携については、常勤監査役および内部監査業務と監査役監査の補助業務を兼務する監査グループより、随時監査状況に関する重要な情報を提供しております。また、監査役会においては、会社法に定める事項をはじめとした重要な事項について協議・決議を行うほか、常勤監査役を中心に取締役、執行役員その他の使用人の職務の執行状況その他の重要な情報の共有化と意見交換を行い、適法・適正な業務執行に対する監査の推進に努め、監査役各々が独立した立場での監査を行いながら、監査業務の相互連携のもとで監査に関する意思決定を行っております。当連結会計年度においては、監査役会を5回開催し、社外監査役2名とも出席すべき監査役会の全てに出席しております。

社外監査役と会計監査人との連携については、社外監査役は、会計監査人による監査状況の報告に際しては、可能な限り常勤監査役とともに直接聴取するほか、常勤監査役を通じて適宜報告内容を把握しております。

内部統制の統括・推進部署である経営政策グループと社外監査役との関係については、経営政策グループのマネジャー・リーダーは、社外監査役も含めた監査役によるヒアリングを受けており、社外監査役からの客観的な助言に基づき、内部統制システムの整備・運用状況の改善・向上に努めております。

役員の報酬等

ア 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	150	123			26	10
監査役 (社外監査役を除く。)	17	15			2	1
社外役員	13	12			1	3

- (注) 1 取締役の基本報酬には、使用人兼務役員の使用人分給与は含まれておりません。  
 2 上記基本報酬及び員数には当事業年度中に退任いたしました取締役2名、社外監査役1名を含んでおります。  
 3 上記以外に平成23年6月29日開催の第102回定時株主総会の決議により役員退職慰労金（退任取締役1名、退任監査役1名に対し10百万円）を支給しております。

イ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ウ 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なものがないため、記載しておりません。

エ 役員報酬等の額の決定に関する方針

当社は、取締役の報酬等の額については、株主総会で承認された総額の範囲内で、各取締役の地位、担当職務、在職年数等を勘案して支給することとし、取締役会での決議により個別の支給額を決定しております。また、監査役の報酬等の額については、株主総会で承認された総額の範囲内で、各監査役の地位、在職年数等を勘案して支給することとし、監査役の協議により個別の支給額を決定しております。

提出会社の株式の保有状況

ア 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 41銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 3,036百万円

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社広島銀行	3,428,765	1,237	取引関係等の円滑化
広島ガス株式会社	1,860,000	496	取引関係等の円滑化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	970,190	372	取引関係等の円滑化
中国電力株式会社	100,000	153	取引関係等の円滑化
株式会社山口フィナンシャルグループ	136,480	105	取引関係等の円滑化
全日本空輸株式会社	268,539	66	取引関係等の円滑化
株式会社伊予銀行	64,094	44	取引関係等の円滑化
東洋証券株式会社	274,000	36	取引関係等の円滑化
株式会社中国銀行	27,600	26	取引関係等の円滑化
住友信託銀行株式会社	40,631	17	取引関係等の円滑化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	59,520	8	取引関係等の円滑化
NKSJホールディングス株式会社	14,288	7	取引関係等の円滑化
みずほ証券株式会社	20,892	4	取引関係等の円滑化
みずほ信託銀行株式会社	51,348	3	取引関係等の円滑化
日本電信電話株式会社	1,000	3	取引関係等の円滑化
中央三井トラスト・ホールディングス株式会社	981	0	取引関係等の円滑化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
野村ホールディングス株式会社	516,000	224	退職給付信託
KDDI株式会社	375	193	退職給付信託
中央三井トラスト・ホールディングス株式会社	188,000	55	退職給付信託
株式会社大和証券グループ本社	98,000	37	退職給付信託

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社広島銀行	3,428,765	1,296	取引関係等の円滑化
広島ガス株式会社	1,860,000	461	取引関係等の円滑化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	970,190	399	取引関係等の円滑化
中国電力株式会社	100,000	153	取引関係等の円滑化
株式会社山口フィナンシャルグループ	136,480	102	取引関係等の円滑化
全日本空輸株式会社	268,539	67	取引関係等の円滑化
東洋証券株式会社	274,000	62	取引関係等の円滑化
株式会社伊予銀行	64,094	46	取引関係等の円滑化
株式会社中国銀行	27,600	30	取引関係等の円滑化
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	61,521	16	取引関係等の円滑化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	118,168.08	15	取引関係等の円滑化
NK S Jホールディングス株式会社	3,572	6	取引関係等の円滑化
日本電信電話株式会社	1,000	3	取引関係等の円滑化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
野村ホールディングス株式会社	516,000	188	退職給付信託、議決権有
K D D I 株式会社	375	201	退職給付信託、議決権有
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	188,000	49	退職給付信託、議決権有
株式会社大和証券グループ本社	98,000	32	退職給付信託、議決権有

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

ウ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査については、当社は有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、当該監査法人が当社および関係会社について会計監査を実施しております。

当事業年度において監査業務を行った公認会計士の氏名および継続従事期間ならびに監査業務に従事する補助者は下記のとおりであります。

指定有限責任社員

業務執行社員

濱田芳弘、河合聡一郎

(継続監査年数については、各人とも7年を超えていないため、当該年数を記載しておりません。)

監査業務に従事する補助者

公認会計士 4名、その他 8名

## 取締役の定数その他定款に定める事項

### ア 取締役の定数

当社は、取締役の定数を10名以内とする旨を定款に定めております。なお、平成24年6月開催の定時株主総会決議をもって、当該定数を12名以内に変更しております。

### イ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

### ウ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項等

#### a 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、財務政策への対応を機動的に実施することができるよう、会社法第165条第2項に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

#### b 中間配当

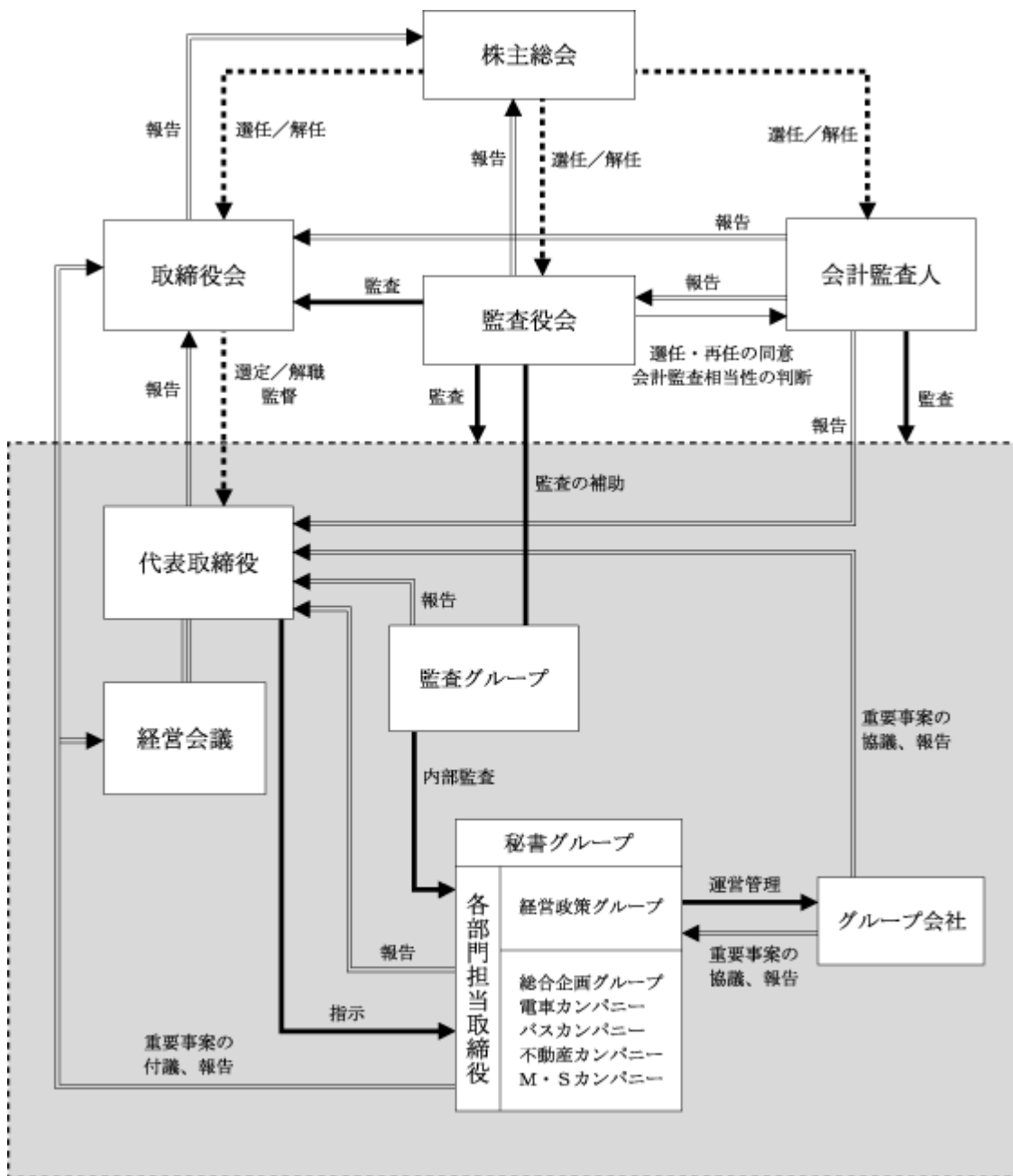
当社は、中間配当について、株主への利益還元を機動的に実施することができるよう、会社法第454条第5項に基づき、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

#### c 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、定足数を緩和することにより株主総会の円滑な運営を行うことができるよう、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(参考)

コーポレートガバナンス：模式図



(平成24年3月31日現在)

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	36		36	
連結子会社				
計	36		36	

【その他重要な報酬の内容】

該当する事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当する事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当する事項はありません。



## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第2条の規定に基づき、同規則及び「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)により作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修へ定期的に参加しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,397	5,267
受取手形及び売掛金	1,710	1,459
販売土地及び建物	8,306	9,082
未成工事支出金	209	105
商品及び製品	171	179
原材料及び貯蔵品	3 409	3 405
繰延税金資産	465	481
その他	976	1,225
貸倒引当金	5	4
流動資産合計	16,640	18,203
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1, 3 12,281	1, 3 17,282
機械装置及び運搬具（純額）	1, 3 4,068	1, 3 4,255
土地	3, 5 42,370	3, 5 43,029
建設仮勘定	2,267	8
その他（純額）	1, 3 625	1, 3 773
有形固定資産合計	61,613	65,350
無形固定資産		
借地権	35	45
その他	243	242
無形固定資産合計	279	287
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 3 3,855	2, 3 3,674
長期貸付金	12	12
繰延税金資産	295	292
前払年金費用	1,411	1,364
その他	868	960
貸倒引当金	99	104
投資その他の資産合計	6,342	6,200
固定資産合計	68,235	71,838
資産合計	84,876	90,041

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,529	1,525
短期借入金	3, 7 12,506	3, 7 16,384
1年内償還予定の社債	3 929	3 1,096
未払金	1,287	4,927
未払法人税等	566	255
未払消費税等	165	115
繰延税金負債	1	2
未払費用	627	745
預り金	779	1,172
賞与引当金	872	951
役員賞与引当金	19	27
その他	1,731	1,670
流動負債合計	21,017	28,874
固定負債		
社債	3 1,650	3 1,003
長期借入金	3, 7 12,158	3, 7 8,414
繰延税金負債	437	372
再評価に係る繰延税金負債	5 13,340	5 11,686
退職給付引当金	1,720	1,748
役員退職慰労引当金	233	276
その他	4,694	5,144
固定負債合計	34,234	28,646
負債合計	55,252	57,520
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,335	2,335
資本剰余金	1,972	1,972
利益剰余金	4,849	5,972
自己株式	84	90
株主資本合計	9,072	10,190
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	558	656
土地再評価差額金	5 19,388	5 21,034
その他の包括利益累計額合計	19,946	21,690
少数株主持分	605	639
純資産合計	29,624	32,520
負債純資産合計	84,876	90,041

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
営業収益	35,549	36,370
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	27,255	28,029
販売費及び一般管理費	6,885	7,007
営業費合計	<u>34,141</u> <sub>1</sub>	<u>35,037</u> <sub>1</sub>
営業利益	1,408	1,333
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	69	68
持分法による投資利益	16	11
受託工事収入	157	905
その他	75	75
営業外収益合計	<u>322</u>	<u>1,062</u>
営業外費用		
支払利息	482	422
受託工事費用	157	905
その他	158	96
営業外費用合計	<u>799</u>	<u>1,425</u>
経常利益	931	970
特別利益		
固定資産売却益	3	38
工事負担金等受入額	869	1,088
負ののれん発生益	-	429
その他	94	40
特別利益合計	<u>966</u>	<u>1,596</u>
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	<sub>2</sub> 19	<sub>2</sub> 23
固定資産圧縮損	<sub>3</sub> 160	<sub>3</sub> 301
減損損失	<sub>4</sub> 2	<sub>4</sub> 358
投資有価証券評価損	2	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4	-
猿害対策費	33	-
段階取得に係る差損	-	169
受入準備費用	-	188
その他	3	-
特別損失合計	<u>224</u>	<u>1,041</u>
税金等調整前当期純利益	1,673	1,525
法人税、住民税及び事業税	724	262
法人税等調整額	27	58
法人税等合計	<u>751</u>	<u>203</u>
少数株主損益調整前当期純利益	921	1,322
少数株主利益	54	50
当期純利益	<u>867</u>	<u>1,271</u>

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	921	1,322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	173	97
土地再評価差額金	-	1,650
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益	175	1,748
包括利益	746	3,070
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	692	3,019
少数株主に係る包括利益	54	50

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	2,335	2,335
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,335	2,335
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	1,972	1,972
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,972	1,972
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	4,132	4,849
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
当期純利益	867	1,271
土地再評価差額金の取崩	0	4
当期変動額合計	716	1,123
当期末残高	4,849	5,972
<b>自己株式</b>		
当期首残高	84	84
当期変動額		
自己株式の取得	0	5
当期変動額合計	0	5
当期末残高	84	90
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	8,356	9,072
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
当期純利益	867	1,271
自己株式の取得	0	5
土地再評価差額金の取崩	0	4
当期変動額合計	716	1,118
当期末残高	9,072	10,190

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	733	558
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	175	97
当期変動額合計	175	97
当期末残高	558	656
<b>土地再評価差額金</b>		
当期首残高	19,389	19,388
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	1,646
当期変動額合計	0	1,646
当期末残高	19,388	21,034
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	20,123	19,946
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	176	1,744
当期変動額合計	176	1,744
当期末残高	19,946	21,690
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	557	605
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	47	34
当期変動額合計	47	34
当期末残高	605	639
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	29,037	29,624
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
当期純利益	867	1,271
自己株式の取得	0	5
土地再評価差額金の取崩	0	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	129	1,778
当期変動額合計	587	2,896
当期末残高	29,624	32,520

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,673	1,525
減価償却費	2,274	2,230
負ののれん発生益	-	429
減損損失	2	358
販売用不動産評価損	105	30
貸倒引当金の増減額（は減少）	31	3
退職給付引当金の増減額（は減少）	161	91
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	33	22
賞与引当金の増減額（は減少）	20	29
役員賞与引当金の増減額（は減少）	0	7
段階取得に係る差損益（は益）	-	169
受取利息及び受取配当金	72	69
支払利息	482	422
投資有価証券評価損益（は益）	2	-
有形及び無形固定資産除売却損益（は益）	36	0
固定資産圧縮損	160	301
売上債権の増減額（は増加）	859	329
たな卸資産の増減額（は増加）	658	700
仕入債務の増減額（は減少）	571	4
その他の固定負債の増減額（は減少）	573	335
工事負担金等受入額	869	1,088
その他の流動負債の増減額（は減少）	86	0
その他	280	238
小計	4,944	3,612
利息及び配当金の受取額	75	72
利息の支払額	496	419
法人税等の支払額	378	634
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,143	2,630
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の売却による収入	50	0
投資有価証券の取得による支出	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	112
有形固定資産の取得による支出	3,376	1,833
工事負担金等受入による収入	780	700
定期預金の預入による支出	1,316	1,304
定期預金の払戻による収入	1,354	1,299
差入保証金の回収による収入	3	3
その他	25	36
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,479	1,059



	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	1,283	1,029
長期借入れによる収入	7,476	2,710
長期借入金の返済による支出	7,788	3,729
社債の発行による収入	541	444
社債の償還による支出	1,585	929
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	151	151
少数株主への配当金の支払額	6	6
その他	79	85
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,877</b>	<b>720</b>
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,214	850
現金及び現金同等物の期首残高	5,012	3,798
現金及び現金同等物の期末残高	1 3,798	1 4,649

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(イ)連結子会社15社は「第1 企業の概況」の4 関係会社の状況に記載しているため記載を省略しております。

芸陽バス(株)は平成24年3月9日の株式追加取得に伴い、当連結会計年度より持分法適用関連会社から連結子会社となりました。なお、みなし取得日を当連結会計年度末としているため、当連結会計年度は貸借対照表のみ連結しております。

(ロ)非連結子会社名は「第1 企業の概況」の3 事業の内容に記載しているため記載を省略しております。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、その総資産、営業収益、当期純損益及び利益剰余金等からみて、いずれも小規模会社であり、かつ、全体として連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の関連会社

持分法を適用している関連会社2社は「第1 企業の概況」の4 関係会社の状況に記載しているため記載を省略しております。

芸陽バス(株)は平成24年3月9日の株式追加取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社となり、持分法適用の範囲から除外しております。

(ロ)持分法非適用会社について持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日と連結決算日は一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等にもとづく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法にもとづく原価法

たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

商品 売価還元法

貯蔵品 移動平均法

販売土地及び建物 個別法

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

原則として定率法を採用しております。

ただし、ゴルフ場施設と平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法を採用しております。また、鉄軌道事業固定資産の構築物のうち取替資産については取替法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(ハ)重要な繰延資産の処理方法

社債発行費は支出時に全額費用処理しております。

(二)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

諸債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討した貸倒見積額を計上しております。

賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額にもとづき当連結会計年度末に発生している額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、当社保有株式による退職給付信託を設定し、残額を主として15年による按分額で費用処理しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を、それぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理しております。

役員退職慰労引当金

役員の退任により支給する退職慰労金に充てるため、退職慰労金に関する内規にもとづく基準額を計上しております。

(ホ)重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高の計上基準

当連結会計年度に着手した工事契約から当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(へ)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

金利スワップ取引

ヘッジ対象

借入金利息

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため有効性の判定を省略しております。

(ト)工事負担金等の会計処理

工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、連結損益計算書においては、工事負担金等受入額を「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を「固定資産圧縮損」として特別損失に計上しております。

(チ)のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(リ)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から満期日までの期間が3ヶ月以内の定期預金を含めております。

(ヌ)その他の連結財務諸表作成の基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。なお、控除対象外消費税等は、発生連結会計年度の期間費用としております。

【表示方法の変更】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めておりました「未払金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示しておりました3,018百万円は、「未払金」1,287百万円、「その他」1,731百万円として組み替えております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

## 1 資産の金額から直接控除している減価償却累計額の額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	45,465百万円	48,176百万円

## 2 投資有価証券には、次の金額が含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非連結子会社及び関連会社株式	463百万円	187百万円

## 3 担保に供している資産

## (1) 財団

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
原材料及び貯蔵品	186百万円	163百万円
建物及び構築物	2,641	2,652
機械装置及び運搬具	2,572	2,151
土地	9,203	9,196
その他	158	137
計	14,763	14,302

以上に対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	5,557百万円	5,281百万円

## (2) その他

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	2,070百万円	2,780百万円
機械装置及び運搬具	3	209
土地	14,276	15,100
投資有価証券	1,190	1,251
計	17,541	19,341

以上に対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	150百万円	200百万円
社債	800	800
長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	5,190	4,691
計	6,140	5,691

## 4 偶発債務

持分法適用関連会社の代理店契約にもとづく債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
ひろでん中国新聞旅行(株)	33百万円	33百万円

## 5 土地再評価法の適用

当社において、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日改正)にもとづき、事業用土地の再評価を行っております。

- ・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定する方法にもとづいて算定しており、再評価差額のうち税効果相当額を固定負債の部に「再評価に係る繰延税金負債」として、その他の金額を純資産の部に「土地再評価差額金」として計上しております。
- ・再評価を行った年月日 平成13年3月31日

6 当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関15行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。当連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントにかかる借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	10,750百万円	10,630百万円
借入実行残高	6,177	7,415
差引額	4,573	3,215

#### 7 純資産の維持に係る財務制限条項

(前連結会計年度)

当社における借入金のうち、9,680万円については、各年度の決算期及び中間期の末日における連結及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持することを確約しております。

(当連結会計年度)

当社における借入金のうち、9,857百万円については、各年度の決算期及び中間期の末日における連結及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持することを確約しております。

(連結損益計算書関係)

1 運輸業等営業費及び売上原価・販売費及び一般管理費の主な内訳は、次のとおりであります。

運輸業等営業費及び売上原価

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
人件費	9,153百万円	9,235百万円
経費	3,134	3,375
諸税	379	361
減価償却費	1,607	1,495
売上原価	12,981	13,561
計	27,255	28,029

販売費及び一般管理費

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
人件費	3,534百万円	3,521百万円
経費	2,476	2,514
諸税	391	404
減価償却費	482	566
計	6,885	7,007

運輸業等営業費及び売上原価・販売費及び一般管理費に含まれる引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
賞与引当金繰入額	883百万円	893百万円
役員賞与引当金繰入額	19	25
退職給付費用	553	576
役員退職慰労引当金繰入額	36	31
貸倒引当金繰入額	1	2

2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
もみじ本陣リニューアル等に 伴う除却	15百万円	百万円
索道設備台風罹災に伴う除却		13
賃貸オフィスビルテレビ共聴設備 ほか除却		3
その他	3	6

3 固定資産圧縮損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
L R T等公共交通利用促進支援事 業費圧縮損	28百万円	百万円
呉市交通局車両購入費圧縮損		93
その他	131	207

#### 4 減損損失

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失
遊休資産	土地	広島市	百万円 2

(資産をグループ化した方法)

当社グループは管理会計上の事業、施設・店舗ごとに、遊休資産については、個別物件ごとに資産をグループ化しております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

地価の著しい下落及び、当初の予定より収益性が低下したため、減損損失を認識しました。

その内訳は土地2百万円であります。

(回収可能価額の算定方法)

回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は固定資産税評価額等を基に合理的な調整を行って算出しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失
ゴルフ場施設	土地、機械装置	三原市	百万円 357
遊休資産	土地	広島市	1

(資産をグループ化した方法)

当社グループは管理会計上の事業、施設・店舗ごとに、遊休資産については、個別物件ごとに資産をグループ化しております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

地価の著しい下落及び、当初の予定より収益性が低下したため、減損損失を認識しました。

その内訳は土地347百万円、機械装置及び運搬具11百万円であります。

(回収可能価額の算定方法)

回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は鑑定評価額及び固定資産税評価額等を基に合理的な調整を行って算出しております。



(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	75百万円
組替調整額	
税効果調整前	75百万円
税効果額	22
その他有価証券評価差額金	97百万円
土地再評価差額金	
当期発生額	百万円
組替調整額	
税効果調整前	百万円
税効果額	1,650
土地再評価差額金	1,650百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	
当期発生額	0百万円
その他の包括利益合計	1,748百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	60,891,000			60,891,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	211,817	1,385		213,202

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,367株

連結子会社等の持分比率変動により増加した自己株式(当社株式)の当社帰属分 18株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年 6月29日 定時株主総会	普通株式	151	2.50	平成22年 3月31日	平成22年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	151	2.50	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	60,891,000			60,891,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	213,202	13,893		227,095

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,019株

連結子会社等の持分比率変動により増加した自己株式(当社株式)の当社帰属分 12,874株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	151	2.50	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	212	3.50	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

(注) 1株当たり配当額3.50円には、電車開業100周年に伴う記念配当1.00円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金勘定	4,397百万円	5,267百万円
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	598	617
現金及び現金同等物	3,798	4,649

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

株式の取得により芸陽バス(株)を新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の主な内訳並びに芸陽バス(株)株式の取得価額と取得による収入との関係は次のとおりであります。

流動資産	355百万円
固定資産	1,042
流動負債	432
固定負債	286
負ののれん発生益	374
少数株主持分	47
芸陽バス(株)株式の取得価額	255
前連結会計年度以前に取得した取引の取得価額	115
差引：当連結会計年度に取得した取引の取得価額	140
芸陽バス(株)の現金及び現金同等物	252
差引：株式取得による収入	112

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引  
 借手側

1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額  
 前連結会計年度(平成23年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	その他 (工具器具備品)	(無形固定資産) その他	合計
取得価額相当額	126百万円	31百万円	13百万円	171百万円
減価償却累計額相当額	101百万円	26百万円	3百万円	131百万円
減損損失累計額相当額	百万円	百万円	9百万円	9百万円
期末残高相当額	24百万円	4百万円	0百万円	30百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払  
 利子込み法により算定しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	その他 (工具器具備品)	(無形固定資産) その他	合計
取得価額相当額	41百万円	6百万円	百万円	47百万円
減価償却累計額相当額	30百万円	4百万円	百万円	35百万円
減損損失累計額相当額	百万円	百万円	百万円	百万円
期末残高相当額	10百万円	1百万円	百万円	11百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払  
 利子込み法により算定しております。

2 未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	18百万円	6百万円
1年超	11百万円	4百万円
合計	30百万円	11百万円
リース資産減損勘定期末残高	0百万円	百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が  
 低いため、支払利子込み法により算定しております。

3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1) 支払リース料	39百万円	10百万円
(2) リース資産減損勘定の取崩額	1百万円	0百万円
(3) 減価償却費相当額	39百万円	10百万円

4 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社及び連結子会社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入等により資金を調達しております。借入金の用途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。デリバティブは、一部の長期借入金の金利水準の変動によるリスクをヘッジするため、金利スワップ取引を利用しており、投機目的では利用しない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金、社債は必要な資金調達を目的としたものであり、このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してリスクをヘッジしております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社及び連結子会社は、営業債権について、各事業部門において、取引先ごとに期日及び残高を管理し、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握を図っております。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金の金利水準の変動によるリスクをヘッジするため、金利スワップ取引を利用しております。投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引の運用、管理は取締役会の承認を受け、M・Sカンパニー経理管理グループが行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、M・Sカンパニー経理管理グループが、半期ごとに資金計画を作成し、毎月作成する日々の資金繰り表を更新すること等により、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	4,397	4,397	
(2)受取手形及び売掛金	1,710	1,710	
(3)投資有価証券 其他有価証券	2,629	2,629	
資産計	8,737	8,737	
(4)支払手形及び買掛金	1,529	1,529	
(5)短期借入金	8,832	8,832	
(6)長期借入金	15,832	15,959	127
(7)社債	2,579	2,592	12
負債計	28,773	28,913	139
(8)デリバティブ取引			

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記を参照ください。

(4)支払手形及び買掛金、並びに(5)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6)長期借入金、(7)社債

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記(8)参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8)デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載してあります（上記(6)参照）。

2 非上場株式（連結貸借対照表計上額379百万円）、匿名組合出資金（連結貸借対照表計上額381百万円）、子会社株式及び関連会社株式（連結貸借対照表計上額463百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	4,397	
受取手形及び売掛金	1,710	

4 長期借入金、社債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	3,674	5,845	2,618	878	2,679	136
社債	929	1,077	372	150	50	

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	5,267	5,267	
(2)受取手形及び売掛金	1,459	1,459	
(3)投資有価証券 その他有価証券	2,716	2,716	
資産計	9,443	9,443	
(4)支払手形及び買掛金	1,525	1,525	
(5)短期借入金	9,861	9,861	
(6)未払金	4,927	4,927	
(7)長期借入金	14,938	14,983	45
(8)社債	2,100	2,105	5
負債計	33,352	33,403	51
(9)デリバティブ取引			

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記を参照ください。

(4)支払手形及び買掛金、(5)短期借入金、並びに(6)未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7)長期借入金、(8)社債

これらの時価については、元利息の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記(9)参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利息の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(9) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載してあります（上記(7)参照）。

2 非上場株式（連結貸借対照表計上額392百万円）、匿名組合出資金（連結貸借対照表計上額377百万円）、子会社株式及び関連会社株式（連結貸借対照表計上額187百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	5,267	
受取手形及び売掛金	1,459	

4 長期借入金、社債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	6,523	3,615	1,738	2,829	128	103
社債	1,096	435	412	112	43	



(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

区分	取得原価 (百万円)	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	852	1,862	1,010
小計	852	1,862	1,010
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	840	767	73
小計	840	767	73
計	1,692	2,629	936

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

区分	取得原価 (百万円)	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	852	1,975	1,123
小計	852	1,975	1,123
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	854	741	113
小計	854	741	113
計	1,706	2,716	1,009

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	2,025	1,293	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	1,493	858	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

[次へ](#)

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

また、当社において退職給付信託を設定しております。

当社については、昭和58年9月に退職一時金制度から適格退職年金制度へ一部移行し、平成19年7月に適格退職年金制度から確定給付企業年金制度に移行しております。また、平成22年1月に新退職金制度及び定年延長(65歳)を実施し、企業年金規約を変更しております。

当連結会計年度末現在、当社及び連結子会社全体で退職一時金制度については11社が有しており、また、厚生年金基金は連結子会社1社が全国住宅地開発厚生年金基金を有しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成22年3月31日現在)

年金資産の額	27,348百万円
年金財政計算上の給付債務の額	33,747百万円
差引額	<u>6,398百万円</u>

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成22年3月31日)

0.55%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額は、年金財政計算上の過去勤務債務残高908百万円及び剰余金 5,490百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間12年の元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

また、当社において退職給付信託を設定しております。

当社については、昭和58年9月に退職一時金制度から適格退職年金制度へ一部移行し、平成19年7月に適格退職年金制度から確定給付企業年金制度に移行しております。また、平成22年1月に新退職金制度及び定年延長(65歳)を実施し、企業年金規約を変更しております。

当連結会計年度末現在、当社及び連結子会社全体で退職一時金制度については12社が有しており、また、厚生年金基金は連結子会社1社が全国住宅地開発厚生年金基金を有しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成23年3月31日現在)

年金資産の額	26,610百万円
年金財政計算上の給付債務の額	35,176百万円
差引額	<u>8,565百万円</u>

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成23年3月31日)

0.57%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額は、年金財政計算上の過去勤務債務残高1,175百万円及び剰余金 7,390百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間12年の元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	4,517	5,177
(2) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	1,605	1,345
(3) 会計基準変更時差異の未処理額(百万円)	1,038	886
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	1,168	1,221
(5) 年金資産(退職給付信託を含む)(百万円)	3,606	4,030
(6) 前払年金費用(百万円)	1,411	1,364
(7) 退職給付引当金(百万円)	1,720	1,748

(注) 1 厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。  
 2 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(1) 勤務費用(百万円)(注) 1, 2	226	233
(2) 利息費用(百万円)	78	79
(3) 期待運用収益(百万円)		
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額(百万円)	261	261
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	247	266
(6) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	259	259
(7) 退職給付費用(百万円)	553	580

(注) 1 厚生年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。  
 2 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は(1)勤務費用に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
0.0%	0.0%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

11年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

11年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度より費用処理しております。)

(6) 会計基準変更時差異の処理年数

主として15年であります。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	696百万円	625百万円
役員退職慰労引当金	94	101
賞与引当金	354	362
法定福利費未払費用	47	50
未払事業税	47	25
減損損失	1,710	1,807
販売土地及び建物評価損	536	26
資産に係る未実現利益	149	156
繰越欠損金	562	473
繰延税金負債(前払年金費用) との相殺	570	483
繰延税金負債(その他有価証券 評価差額金)との相殺	376	354
その他	97	111
繰延税金資産(負債)小計	3,349	2,904
評価性引当金	3,028	2,504
繰延税金資産(負債)合計	321	399
繰延税金資産(負債)の純額	321	399

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の主な項目別内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
評価性引当金の増減額	3.1	24.9
交際費等損金不算入項目	1.6	2.0
受取配当金等益金不算入項目	1.6	1.7
住民税均等割額	0.9	1.0
負ののれん発生益		11.4
段階取得に係る差損		4.5
税率変更による期末繰延税金 資産(負債)の減額修正		2.8
税効果対象外子会社に係る 未実現損益消去	0.8	0.4
その他	1.3	0.2
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	44.9	13.3

### 3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成24年4月1日から平成27年3月31日まで 37.8%

平成27年4月1日以降 35.4%

この税率の変更により繰延税金資産（負債）の純額が6百万円、その他有価証券評価差額金が50百万円それぞれ増加し、当連結会計年度に費用計上された法人税等調整額の金額が43百万円増加しております。また、再評価に係る繰延税金負債が1,650百万円減少し、土地再評価差額金が1,650百万円増加しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、広島県内において、賃貸用のオフィスビル（土地を含む）を有しております。なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

		前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
賃貸等不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	17,917
		期中増減額	793
		期末残高	17,123
	期末時価	18,013	27,301
賃貸等不動産として 使用される部分 を含む不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	7,395
		期中増減額	481
		期末残高	7,877
	期末時価	8,262	7,993

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、宇品御幸二丁目賃貸事業用地造成（571百万円）、楽々園ショッピングセンター商業棟新築（803百万円）で、減少は、主として減価償却及び連結相殺消去によるものであります。
- 当連結会計年度の主な増加は、広島トランヴェールビル竣工（7,173百万円）で、減少は、主として減価償却によるものであります。
- 3 時価の算定方法  
 主要な物件については、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）、その他の物件については、一定の評価額等が適切に市場価格を反映していると考えられるため、当該評価額や連結貸借対照表計上額をもって時価としております。
- 4 前連結会計年度の上表には、紙屋町再開発事業（連結貸借対照表計上額3,922百万円）は、開発中であることから、時価を把握することが困難であるため、含めておりません。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

		前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
賃貸等不動産	賃貸収益	1,942	1,885
	賃貸費用	1,001	1,075
	差額	940	809
	その他（売却損益等）		
賃貸等不動産として 使用される部分を含 む不動産	賃貸収益	404	389
	賃貸費用	276	272
	差額	128	117
	その他（売却損益等）		

- (注) 1 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、当社及び一部の子会社が使用している部分も含まため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用（減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等）については、賃貸費用に含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、鉄軌道事業や自動車事業をはじめとする運輸業を基軸に、広島市を中心として、流通、不動産、建設、レジャー・スポーツ、ホテルなど暮らしに密着した様々な事業を営んでおります。

したがって、当社グループは、事業内容を基礎とした事業の種類別のセグメントから構成されており、「運輸業」、「流通業」、「不動産業」、「建設業」および「レジャー・サービス業」の5つを報告セグメントとしております。

報告セグメントにおける各事業区分の事業内容は、以下のとおりであります。

運輸業・・・鉄軌道事業、自動車事業、海上運送業、索道業、航空運送代理業  
 流通業・・・物品販売業  
 不動産業・・・不動産賃貸業、不動産販売業  
 建設業・・・土木・建築業  
 レジャー・サービス業・・・ホテル業、飲食業、ボウリング業、ゴルフ業

2 報告セグメントごとの営業収益、利益、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部営業収益又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの営業収益、利益、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

(単位：百万円)

区分	運輸業	流通業	不動産業	建設業	レジャー・サービス業	合計	調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
営業収益								
外部顧客への営業収益	17,195	11,136	2,931	2,386	1,899	35,549		35,549
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	60	937	414	1,262	5	2,680	2,680	
計	17,255	12,074	3,345	3,648	1,905	38,230	2,680	35,549
セグメント利益	118	56	1,041	86	105	1,408	0	1,408
セグメント資産	31,279	3,933	42,935	3,170	3,595	84,914	38	84,876
その他の項目								
減価償却費	1,619	194	321	14	161	2,311	37	2,274
減損損失			2			2		2
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,047	1,029	2,138	4	28	4,249	39	4,209

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1)セグメント利益の調整額0百万円には、セグメント間取引消去0百万円、のれん償却額 0百万円が含まれております。
- (2)セグメント資産の調整額 38百万円には、セグメント間取引消去 3,009百万円、各報告セグメントに配分しない全社資産2,971百万円が含まれております。全社資産は、主に当社の投資有価証券であります。
- (3)減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

区分	運輸業	流通業	不動産業	建設業	レジャー・サービス業	合計	調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
営業収益								
外部顧客への営業収益	17,500	11,216	2,549	3,229	1,875	36,370		36,370
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	56	1,015	394	637	5	2,110	2,110	
計	17,556	12,231	2,943	3,867	1,881	38,481	2,110	36,370
セグメント利益	102	100	913	118	88	1,322	10	1,333
セグメント資産	33,168	3,928	47,187	3,055	3,197	90,538	496	90,041
その他の項目								
減価償却費	1,507	218	369	14	157	2,266	36	2,230
減損損失			1		357	358		358
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,215	136	3,416	6	42	5,816	48	5,768

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額10百万円は、セグメント間取引消去10百万円であります。
  - (2) セグメント資産の調整額 496百万円には、セグメント間取引消去 3,562百万円、各報告セグメントに配分しない全社資産3,065百万円が含まれております。全社資産は、主に当社の投資有価証券であります。
  - (3) 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

運輸業において、株式追加取得に伴い、芸陽バス(株)を連結子会社としました。これに伴い、当連結会計年度において429百万円の負ののれん発生益を計上しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

記載すべき該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

記載すべき該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 芸陽バス株式会社

事業の内容 バス事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当グループの自動車事業のより一層の一体的、広域的かつ効率的な事業展開を行うことを目的とし、同社を連結子会社化いたしました。

(3) 企業結合日

平成24年3月9日

(4) 企業結合の法的形式

現金による株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 42.05%

企業結合日に追加取得した議決権比率 50.89%

取得後の議決権比率 92.94%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社による現金を対価とする株式取得であるため

2 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

期末日をみなし取得日としているため、それ以前の期間の業績については、連結損益計算書上、持分法による投資利益として計上しております。

3 被取得企業の取得原価及びその内訳

企業結合日直前に所有していた株式の時価 115百万円

企業結合日に追加取得した株式の取得原価 140百万円

取得原価 255百万円

4 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損 169百万円

5 発生した負ののれんの金額及び発生原因

(1) 発生した負ののれん

374百万円

(2) 発生原因

時価純資産が取得原価を上回ったため

6 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	355百万円
固定資産	1,042百万円
資産合計	1,397百万円
流動負債	432百万円
固定負債	286百万円
負債合計	718百万円

7 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

営業収益	1,550百万円
営業損失( )	219百万円
経常損失( )	221百万円
当期純利益	33百万円

( 概算額の算定方法 )

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された営業収益及び損益情報と、当社の連結損益計算書における営業収益及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該概算額は、監査証明を受けておりません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	478.26円	525.55円
1株当たり当期純利益金額	14.30円	20.95円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	867	1,271
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	867	1,271
普通株式の期中平均株式数(株)	60,678,680	60,676,404

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	29,624	32,520
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)		
(うち少数株主持分)	(605)	(639)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	29,019	31,881
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	60,677,798	60,663,905

(重要な後発事象)

記載すべき該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
広島電鉄株	第16回無担保社債 (三菱UFJ信託銀行保証付)	平成18年 7月31日	30				
"	第17回無担保社債 (中央三井信託銀行保証付)	平成18年 7月31日	20				
"	第18回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成18年 7月31日	15				
"	第19回無担保社債 (三菱東京UFJ銀行保証付)	平成18年 7月31日	10				
"	第20回無担保社債 (広島銀行保証付)	平成18年 9月21日	50				
"	第21回無担保社債 (広島銀行保証付)	平成18年 12月29日	20				
"	第22回無担保社債 (三菱UFJ信託銀行保証付)	平成19年 1月31日	70				
"	第23回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成19年 1月31日	40				
"	第24回無担保社債 (中央三井信託銀行保証付)	平成19年 1月31日	30				
"	第26回無担保社債 (三菱東京UFJ銀行保証付)	平成19年 7月31日	60	20 (20)	年0.54	無担保社債	平成24年 7月31日
"	第27回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成19年 8月31日	45	15 (15)	年0.55	無担保社債	平成24年 8月31日
"	第28回無担保社債 (三菱東京UFJ銀行保証付)	平成19年 11月30日	160	80 (80)	年1.31	無担保社債	平成24年 11月30日
"	第29回無担保社債 (三菱UFJ信託銀行保証付)	平成20年 1月31日	100	50 (50)	年1.06	無担保社債	平成25年 1月31日
"	第30回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成20年 1月31日	100	50 (50)	年1.01	無担保社債	平成25年 1月31日
"	第31回無担保社債 (三菱東京UFJ銀行保証付)	平成20年 4月30日	24				
"	第32回無担保社債 (三菱UFJ信託銀行保証付)	平成20年 7月31日	125	75 (50)	年1.39	無担保社債	平成25年 7月31日
"	第33回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成20年 7月31日	100	60 (40)	年0.55	無担保社債	平成25年 7月31日
"	第34回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成21年 1月30日	120	80 (40)	年0.90	無担保社債	平成26年 1月31日
"	第35回無担保社債 (山陰合同銀行保証付)	平成21年 4月27日	100	100 (100)	年1.16	無担保社債	平成24年 4月27日
"	第36回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成23年 1月31日	200	200 (50)	年0.75	無担保社債	平成28年 1月29日
"	第37回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成23年 7 月29日		150 (18)	年0.65	無担保社債	平成28年 7月29日
"	第38回無担保社債 (みずほ銀行保証付)	平成24年 1月31日		100 ( )	年0.63	無担保社債	平成29年 1月31日
広電建設株	第5回無担保社債 (もみじ銀行保証付)	平成19年 7月31日	60	20 (20)	年1.70	無担保社債	平成24年 7月31日
"	第6回無担保社債 (山陰合同銀行保証付)	平成21年 3月25日	200				
"	第7回無担保社債 (広島銀行保証付)	平成21年 12月8日	200	200 (200)	年0.92	無担保社債	平成24年 12月7日
"	第8回無担保社債 (山陰合同銀行保証付)	平成24年 3 月26日		200 ( )	年0.92	無担保社債	平成27年 3月26日

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
㈱ホテル ニューヒロデン	第5回無担保社債 (広島銀行保証付)	平成20年 1月28日	350	350 (350)	年1.50	無担保社債	平成25年 1月28日
"	第6回無担保社債 (広島銀行保証付)	平成22年 7月14日	100	100 ( )	年0.91	無担保社債	平成26年 7月14日
"	第7回無担保社債 (三菱東京UFJ銀行保証付)	平成23年 1月26日	250	250 (12)	年0.73	無担保社債	平成26年 1月24日
合計			2,579	2,100 (1,096)			

- (注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。  
 2 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
1,096	435	412	112	43

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,832	9,861	1.450	
1年以内に返済予定の長期借入金	3,674	6,523	1.606	
1年以内に返済予定のリース債務	91	143		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	12,158	8,414	1.500	平成25年4月1日 ～平成32年2月20日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	335	450		平成25年4月5日 ～平成32年3月1日
合計	25,091	25,392		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、リース債務についての「平均利率」の記載はしていません。  
 2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,615	1,738	2,829	128
リース債務	135	109	87	56

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
営業収益 (百万円)	9,023	18,052	27,191	36,370
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	469	866	1,224	1,525
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	239	943	1,079	1,271
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	3.95	15.55	17.80	20.95

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	3.95	11.61	2.25	3.15



2【財務諸表等】  
 (1)【財務諸表】  
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,314	2,646
未収運賃	144	128
未収金	1,200	1,607
未収消費税等	-	145
未収収益	30	44
短期貸付金	14	6
販売土地及び建物	8,161	9,015
貯蔵品	367	353
前払金	277	126
前払費用	7	26
繰延税金資産	362	383
その他の流動資産	115	8
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	12,996	14,491
固定資産		
鉄軌道事業固定資産		
有形固定資産	28,579	28,647
減価償却累計額	16,793	17,285
有形固定資産（純額）	11,786	11,362
無形固定資産	109	65
鉄軌道事業固定資産合計	11,895	11,427
自動車事業固定資産		
有形固定資産	18,050	19,083
減価償却累計額	7,579	7,519
有形固定資産（純額）	10,471	11,563
無形固定資産	25	26
自動車事業固定資産合計	10,496	11,589
不動産事業固定資産		
有形固定資産	26,941	32,426
減価償却累計額	2,294	2,502
有形固定資産（純額）	24,647	29,924
無形固定資産	13	54
不動産事業固定資産合計	24,660	29,978
各事業関連固定資産		
有形固定資産	4,660	4,658
減価償却累計額	2,604	2,677
有形固定資産（純額）	2,056	1,980
無形固定資産	2	1
各事業関連固定資産合計	2,058	1,982
建設仮勘定		
鉄軌道事業	100	8
不動産事業	2,167	-
建設仮勘定合計	2,267	8

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
関係会社株式	1,262	1,402
投資有価証券	1 3,339	1 3,414
従業員に対する長期貸付金	9	9
前払年金費用	1,411	1,364
その他の投資等	676	584
貸倒引当金	316	328
投資その他の資産合計	6,383	6,447
<b>固定資産合計</b>	<b>57,762</b>	<b>61,434</b>
<b>資産合計</b>	<b>70,758</b>	<b>75,926</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
短期借入金	6 3,800	6 5,000
1年内返済予定の長期借入金	1, 6 3,202	1, 6 5,911
1年内償還予定の社債	689	513
未払金	1,265	5,239
未払費用	443	504
未払法人税等	462	25
未払消費税等	110	-
預り連絡運賃	65	62
預り金	482	825
前受運賃	155	162
前受金	871	831
前受収益	66	70
賞与引当金	690	719
その他の流動負債	13	37
<b>流動負債合計</b>	<b>12,320</b>	<b>19,904</b>
<b>固定負債</b>		
社債	730	466
長期借入金	1, 6 10,848	1, 6 7,232
繰延税金負債	430	366
再評価に係る繰延税金負債	4 13,340	4 11,686
退職給付引当金	1,294	1,126
役員退職慰労引当金	228	249
債務保証損失引当金	2,998	2,998
関係会社事業損失引当金	1,297	1,654
長期預り敷金	598	984
その他の固定負債	50	203
<b>固定負債合計</b>	<b>31,815</b>	<b>26,968</b>
<b>負債合計</b>	<b>44,135</b>	<b>46,872</b>

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,335	2,335
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	1,971	1,971
その他資本剰余金	4	4
資本剰余金合計	1,975	1,975
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	225	225
<b>その他利益剰余金</b>		
特別償却準備金	103	75
圧縮積立金	-	2
繰越利益剰余金	2,095	2,807
利益剰余金合計	2,424	3,110
自己株式	50	50
株主資本合計	6,685	7,371
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	549	647
土地再評価差額金	4 19,388	4 21,034
評価・換算差額等合計	19,937	21,682
純資産合計	26,623	29,053
負債純資産合計	70,758	75,926

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>鉄軌道事業</b>		
営業収益		
旅客運輸収入	5,669	5,752
運輸雑収	392	426
鉄軌道事業営業収益合計	6,061	6,179
営業費		
運送営業費	4,576	4,792
一般管理費	424	452
諸税	228	215
減価償却費	806	739
鉄軌道事業営業費合計	6,035	6,199
鉄軌道事業営業利益又は鉄軌道事業営業損失 ( )	26	20
<b>自動車事業</b>		
営業収益		
旅客運送収入	7,917	8,055
運送雑収	340	357
自動車事業営業収益合計	8,258	8,412
営業費		
運送営業費	6,705	6,862
一般管理費	606	634
諸税	149	143
減価償却費	597	551
自動車事業営業費合計	8,058	8,191
自動車事業営業利益	199	221
<b>不動産事業</b>		
営業収益		
不動産販売事業収入	1,036	708
不動産賃貸事業収入	1,745	1,710
不動産事業営業収益合計	2,782	2,419
営業費		
売上原価	825	526
販売費及び一般管理費	475	470
諸税	310	301
減価償却費	183	245
不動産事業営業費合計	1,795	1,544
不動産事業営業利益	987	875
全事業営業収益	17,102	17,012
全事業営業費	15,889	15,935
全事業営業利益	1,213	1,076

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 6	1 4
受取配当金	1 103	1 100
受託工事収入	157	905
雑収入	1 69	1 71
営業外収益合計	336	1,082
<b>営業外費用</b>		
支払利息	290	267
社債利息	20	11
社債発行費	2	2
受託工事費用	157	905
雑支出	149	72
営業外費用合計	619	1,260
経常利益	930	897
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	1	37
工事負担金等受入額	2 454	2 685
その他	40	-
特別利益合計	496	723
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	-	0
固定資産圧縮損	3 145	3 297
減損損失	4 2	4 1
投資有価証券評価損	1	-
関係会社事業損失引当金繰入額	-	357
受入準備費用	-	188
その他	3	-
特別損失合計	151	845
税引前当期純利益	1,275	775
法人税、住民税及び事業税	525	9
法人税等調整額	44	67
法人税等合計	569	57
当期純利益	705	833

【営業費明細表】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	
鉄軌道事業営業費						
1 運送営業費	1					
人件費		3,599		3,628		
経費		976		1,164		
計			4,576		4,792	
2 一般管理費						
人件費		309		325		
経費		115		127		
計			424		452	
3 諸税			228		215	
4 減価償却費			806		739	
鉄軌道事業営業費合計			6,035	38.0	6,199	38.9
自動車事業営業費						
1 運送営業費	2					
人件費		4,391		4,433		
経費		2,313		2,429		
計			6,705		6,862	
2 一般管理費						
人件費		441		456		
経費		164		178		
計			606		634	
3 諸税			149		143	
4 減価償却費			597		551	
自動車事業営業費合計			8,058	50.7	8,191	51.4
不動産事業営業費						
1 土地建物販売原価			825		526	
2 販売費及び一般管理費	3					
人件費		199		194		
経費		275		276		
計			475		470	
3 諸税	3		310		301	
4 減価償却費			183		245	
不動産事業営業費合計			1,795	11.3	1,544	9.7
全事業営業費合計			15,889	100.0	15,935	100.0

(注) 事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額は、次のとおりであります。

		前事業年度	当事業年度		
1 鉄軌道事業 営業費	運送営業費		運送営業費		
	給与	2,975百万円	給与	2,959百万円	
	法定福利費	432	法定福利費	439	
			修繕費	384	
2 自動車事業営業費	運送営業費		運送営業費		
	給与	3,644	給与	3,643	
	法定福利費	501	法定福利費	510	
	燃料費	752	燃料費	822	
			修繕費	551	
3 不動産事業営業費	販売費及び 一般管理費		販売費及び 一般管理費		
	給与	162	給与	156	
			諸手数料	115	
	諸税		諸税		
		固定資産税	244	固定資産税	244
4 営業費(全事業)に 含まれている引当 金繰入額	賞与引当金 繰入額	690	賞与引当金 繰入額	709	
	退職給付費用	491	退職給付費用	505	
	役員退職慰労 引当金繰入額	35	役員退職慰労 引当金繰入額	30	

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,335	2,335
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,335	2,335
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,971	1,971
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,971	1,971
その他資本剰余金		
当期首残高	4	4
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	4	4
資本剰余金合計		
当期首残高	1,975	1,975
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,975	1,975
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	225	225
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	225	225
その他利益剰余金		
特別償却準備金		
当期首残高	108	103
当期変動額		
特別償却準備金の積立	27	-
特別償却準備金の取崩	32	28
当期変動額合計	4	28
当期末残高	103	75
圧縮積立金		
当期首残高	-	-
当期変動額		
圧縮積立金の積立	-	2
当期変動額合計	-	2
当期末残高	-	2



	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	1,536	2,095
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
特別償却準備金の積立	27	-
特別償却準備金の取崩	32	28
圧縮積立金の積立	-	2
当期純利益	705	833
土地再評価差額金の取崩	0	4
当期変動額合計	559	711
当期末残高	2,095	2,807
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	1,870	2,424
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
特別償却準備金の積立	-	-
特別償却準備金の取崩	-	-
圧縮積立金の積立	-	-
当期純利益	705	833
土地再評価差額金の取崩	0	4
当期変動額合計	554	685
当期末残高	2,424	3,110
<b>自己株式</b>		
当期首残高	49	50
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	50	50
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	6,131	6,685
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
当期純利益	705	833
自己株式の取得	0	0
土地再評価差額金の取崩	0	4
当期変動額合計	553	685
当期末残高	6,685	7,371

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	721	549
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	172	98
当期変動額合計	172	98
当期末残高	549	647
<b>土地再評価差額金</b>		
当期首残高	19,389	19,388
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	1,646
当期変動額合計	0	1,646
当期末残高	19,388	21,034
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	20,111	19,937
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	173	1,744
当期変動額合計	173	1,744
当期末残高	19,937	21,682
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	26,242	26,623
当期変動額		
剰余金の配当	151	151
当期純利益	705	833
自己株式の取得	0	0
土地再評価差額金の取崩	0	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	173	1,744
当期変動額合計	380	2,430
当期末残高	26,623	29,053

## 【重要な会計方針】

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法にもとづく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等にもとづく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法にもとづく原価法

### 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

販売土地及び建物 個別法

貯蔵品 移動平均法

### 3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法を採用しております。

また、鉄軌道事業固定資産の構築物のうち取替資産については取替法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 4 繰延資産の処理方法

社債発行費は支出時に全額費用処理しております。

### 5 引当金の計上基準

貸倒引当金

諸債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討した貸倒見積額を計上しております。

賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

## 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額にもとづき当事業年度末に発生している額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、当社保有株式による退職給付信託を設定し、残額を15年による按分額で費用処理しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。

## 役員退職慰労引当金

役員の退任により支給する退職慰労金に充てるため、退職慰労金に関する内規にもとづく基準額を計上しております。

## 債務保証損失引当金

関係会社への債務保証等に係る損失に備えるため、保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

## 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に伴う損失に備えるため、関係会社の資産内容等を勘案し、当社が負担することとなる損失見込み額を計上しております。

## 6 ヘッジ会計の方法

### ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため特例処理を採用しております。

### ヘッジ手段とヘッジ対象

#### ヘッジ手段

金利スワップ取引

#### ヘッジ対象

借入金利息

### ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

### ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため有効性の判定を省略しております。

## 7 工事負担金等の会計処理

工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を「固定資産圧縮損」として特別損失に計上しております。

8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

なお、控除対象外消費税等は、発生事業年度の期間費用としております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

(1) 財団

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
貯蔵品	186百万円	163百万円
鉄軌道事業固定資産	11,491	11,066
自動車事業固定資産	870	870
不動産事業固定資産	1,601	1,601
各事業関連固定資産	770	761
計	14,920	14,464

以上に対応する債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
長期借入金 (1年以内返済予定額を含む)	5,557百万円	5,281百万円

(2) その他

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
自動車事業固定資産	5,533百万円	5,531百万円
不動産事業固定資産	7,256	7,254
投資有価証券	1,190	1,251
計	13,980	14,037

以上に対応する債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
長期借入金 (1年以内返済予定額を含む)	4,513百万円	4,042百万円

2 関係会社の銀行ほかの借入金等に対し、次のとおり債務保証及び保証類似行為を行っております。なお、下記の金額は債務保証損失引当金2,998百万円を控除しております。

(1) 債務保証

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
広電不動産(株)	944百万円	932百万円
(株)広電ストア	0	91
広電建設(株)	185	20
広電観光(株)	40	40
(株)ホテルニューヒロデン	452	380
広電興産(株)	183	175
(株)交通会館	261	235
ひろでん中国新聞旅行(株)	33	33
計	2,100	1,907

(2) 保証予約

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
広電建設(株)	242百万円	百万円
広電観光(株)	240	200
計	482	200

- 3 固定資産のうち取得原価は下記の金額だけ国庫補助金、工事負担金等の受入のため圧縮記帳を行っております。

圧縮記帳額累計

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
鉄軌道事業設備	11,793百万円	10,921百万円
自動車事業設備	3,074	2,493
不動産事業設備	2,413	2,079
各事業関連設備	0	0
計	17,282	15,493

4 土地再評価法の適用

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日改正)にもとづき、事業用土地の再評価を行っております。

・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定する方法にもとづいて算定しており、再評価差額のうち税効果相当額を固定負債の部に「再評価に係る繰延税金負債」として、その他の金額を純資産の部に「土地再評価差額金」として計上しております。

・再評価を行った年月日 平成13年3月31日

- 5 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関9行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
貸出コミットメントの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	2,900	4,100
差引額	2,100	900

6 純資産の維持に係る財務制限条項

(前事業年度)

当社における借入金のうち、9,680百万円については、各年度の決算期及び中間期の末日における連結及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持することを確約しております。

(当事業年度)

当社における借入金のうち、9,857百万円については、各年度の決算期及び中間期の末日における連結及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持することを確約しております。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引にかかるものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取利息	4百万円	4百万円
受取配当金	37	35
退職金出向先負担金	6	5
雑収入	15	12
計	63	57

2 工事負担金等受入額の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
生活交通路線維持費補助金	199百万円	229百万円
呉市交通局移行準備金		131
呉市車両購入補助金		93
地域公共交通確保維持改善事業費補助金		74
廿日市市交通施設バリアフリー化に資する整備事業費補助金	18	
公共交通移動円滑化設備整備費補助金	10	
低公害車普及促進対策費補助金	51	27
踏切道改良工事負担金	35	
L R T等公共交通利用促進支援事業費補助金	28	6
その他	111	122
計	454	685

3 固定資産圧縮損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
呉市車両購入費圧縮損	百万円	93百万円
地域公共交通確保維持改善事業費圧縮損		74
呉市交通局移行準備費圧縮損		45
廿日市市交通施設バリアフリー化に資する整備事業費圧縮損	18	
公共交通移動円滑化設備整備費補助金圧縮損	10	
低公害車普及促進対策費補助金圧縮損	49	27
紙屋町一丁目土地 収用特例による圧縮		26
踏切道改良工事圧縮損	35	
L R T等公共交通利用促進支援事業費補助金	28	6
その他	3	22
計	145	297



#### 4 減損損失

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失
遊休資産	土地	広島市	百万円 2

(資産をグループ化した方法)

当社は管理会計上の事業、施設・店舗ごとに、遊休資産については、個別物件ごとに資産をグループ化しております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

地価の著しい下落及び、当初の予定より収益性が低下したため、減損損失を認識しました。

その内訳は土地2百万円であります。

(回収可能価額の算定方法)

回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は固定資産税評価額等を基に合理的な調整を行って算出しております。

当事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失
遊休資産	土地	広島市	百万円 1

(資産をグループ化した方法)

当社は管理会計上の事業、施設・店舗ごとに、遊休資産については、個別物件ごとに資産をグループ化しております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

地価の著しい下落及び、当初の予定より収益性が低下したため、減損損失を認識しました。

その内訳は土地1百万円であります。

(回収可能価額の算定方法)

回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は固定資産税評価額等を基に合理的な調整を行って算出しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	125,615	1,367		126,982

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。  
単元未満株式の買取りによる増加 1,367株

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	126,982	1,019		128,001

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。  
単元未満株式の買取りによる増加 1,019株

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引  
 借手側

1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成23年3月31日)

	自動車事業	各事業関連	合計
取得価額相当額	33百万円	18百万円	52百万円
減価償却累計額相当額	19百万円	17百万円	36百万円
期末残高相当額	14百万円	1百万円	15百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

当事業年度(平成24年3月31日)

	自動車事業	各事業関連	合計
取得価額相当額	33百万円	百万円	33百万円
減価償却累計額相当額	24百万円	百万円	24百万円
期末残高相当額	9百万円	百万円	9百万円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

2 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	6百万円	4百万円
1年超	9百万円	4百万円
合計	15百万円	9百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

3 当期の支払リース料及び減価償却費相当額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1) 支払リース料	15百万円	6百万円
(2) 減価償却費相当額	15百万円	6百万円

4 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

[次へ](#)

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
子会社株式	1,102	1,315
関連会社株式	159	87
計	1,262	1,402

これらについては、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	522百万円	398百万円
役員退職慰労引当金	92	91
賞与引当金	278	271
法定福利費未払費用	36	36
貸倒引当金	125	111
未払事業税	39	7
債務保証損失引当金	1,211	1,061
関係会社事業損失引当金	523	585
関係会社株式評価損	1,848	1,619
販売土地及び建物評価損	491	
繰越欠損金		59
繰延税金負債(前払年金費用) との相殺	570	483
繰延税金負債(その他有価証券 評価差額金)との相殺	368	348
その他	17	44
繰延税金資産(負債)小計	4,248	3,456
評価性引当金	4,316	3,440
繰延税金資産(負債)合計	67	16
繰延税金資産(負債)の純額	67	16

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等負担率との差異原因の主な項目内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
評価性引当金の増減額	4.6	50.3
交際費等損金不算入項目	1.1	2.1
受取配当金等益金不算入項目	2.0	3.2
住民税均等割額	0.7	1.2
税率変更による期末繰延税金 資産(負債)の減額修正		2.4
その他	0.1	0.1
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	44.7	7.5

### 3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成24年4月1日から平成27年3月31日まで 37.8%

平成27年4月1日以降 35.4%

この税率の変更により繰延税金資産（負債）の純額が30百万円、その他有価証券評価差額金が49百万円、当事業年度に費用計上された法人税等調整額の金額が18百万円それぞれ増加しております。また、再評価に係る繰延税金負債が1,650百万円減少し、土地再評価差額金が1,650百万円増加しております。

(企業結合等関係)

当事業年度(平成24年3月31日)

取得による企業結合

(1)連結財務諸表の注記事項(企業結合等関係)における記載内容と同一であるため、記載して  
 いません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

記載すべき該当事項はありません。

当事業年度(平成24年3月31日)

記載すべき該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	438.14円	478.15円
1株当たり当期純利益金額	11.61円	13.72円

(注)1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について、潜在株式が存在しないため記載して  
 いません。  
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(百万円)	705	833
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	705	833
普通株式の期中平均株式数(株)	60,764,897	60,763,582

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	26,623	29,053
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	26,623	29,053
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普 通株式の数(株)	60,764,018	60,762,999

(重要な後発事象)

記載すべき該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
株式会社広島銀行	3,428,765	1,296
広島ガス株式会社	1,860,000	461
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	970,190	399
中国電力株式会社	100,000	153
株式会社広島バスセンター	115,371	115
株式会社山口フィナンシャルグループ	136,480	102
株式会社山口フィナンシャルグループ 第四種優先株式	100	100
全日本空輸株式会社	268,539	67
東洋証券株式会社	274,000	62
株式会社伊予銀行	64,094	46
広島空港ビルディング株式会社	68,000	39
株式会社テレビ新広島	20,000	35
株式会社中国銀行	27,600	30
その他 (28銘柄)	460,665.08	125
計	7,793,804.08	3,036

【その他】

種類及び銘柄	口数(口)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
匿名組合出資金		
有限会社国泰寺アセット	1	377
計	1	377

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
土地	38,912	487	36 (26) [1]	39,363			39,363
建物	10,745	5,409	52 (39)	16,101	6,688	311	9,413
構築物	5,417	317	58 (32)	5,676	3,516	133	2,159
車両	20,742	947	862 (168)	20,826	17,988	876	2,838
機械装置	1,439	297	37 (23)	1,698	1,001	102	697
工具・器具・備品	972	56	67 (6)	961	785	61	176
リース資産	4	182		187	5	3	182
建設仮勘定	2,267	5,456	7,715	8			8
有形固定資産計	80,500	13,154	8,829 (297) [1]	84,825	29,985	1,487	54,839
無形固定資産							
電話加入権				7			7
借地権				19			19
上水道施設利用権				23	10	1	12
共同施設利用権				43	1	1	42
その他(ソフト)				225	160	45	65
無形固定資産計				320	172	48	147
長期前払費用	532	0		532	396	106	135
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

(1) 土地	広営業課用地購入	275百万円
	焼山営業課用地購入	110
	紙屋町一丁目不動産事業用地購入	102
(2) 建物	広島トランヴェールビルディング新築工事	5,168
	呉中央営業課・車両整備工場改修工事	56
(3) 構築物	宇品二丁目折り返し自動化工事	77
	的場分岐器交換工事	36
	広営業課新設工事	36
(4) 車両	車両購入35両	867
(5) 機械装置	広島トランヴェールビルディング新築工事	205
	千田変電所3号変成器更新工事	41
(6) 工具・器具・備品	電車運行情報提供システム新設	7
(7) リース資産	リース車両導入 新車2両、中古15両	181
(8) 共同施設負担金	広島トランヴェールビルディング シャレオ接続に係る施設負担金	43

2 当期減少額の主なものは次のとおりであります。

(1) 土地	紙屋町一丁目土地圧縮	26百万円
	廿日市駅周辺用地収用による売却	3
(2) 建物	呉中央営業課・車両整備工場改修工事圧縮	28
(3) 構築物	的場分岐器交換工事圧縮	14
(4) 車両	乗合車両購入圧縮	165
(5) 機械装置	千田変電所3号変成器圧縮	13

3 当期減少額欄の( )内の金額は、圧縮記帳額(内数)であります。

4 当期減少額欄の[ ]内の金額は、減損損失計上額(内数)であります。



- 5 無形固定資産の金額が資産の総額の100分の1以下であるので、財務諸表等規則様式第11号の規定により「当期首残高」「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	316	17	0	6	328
賞与引当金	690	719	690		719
役員退職慰労引当金	228	30	9		249
債務保証損失引当金	2,998				2,998
関係会社事業損失引当金	1,297	357			1,654

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、主として債権の回収によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	140
預金	
当座預金	59
普通預金	0
通知預金	1,878
定期預金	568
預金計	2,506
計	2,646

ロ 未収運賃

区分	金額(百万円)
広電観光(株)	53
(株)広島バスセンター	33
中国ジェイアールバス(株)	10
一畑バス(株)	6
(株)広電宮島ガーデン	4
その他	19
計	128

なお、未収運賃の滞留状況は次のとおりであります。

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{366}$
144	3,815	3,831	128	96.8	13.10

## 八 未収金

区分	金額(百万円)
ICカードチャージ金等相互精算	578
店舗用土地建物貸付料	249
受託工事代等	482
バス車両購入補助金	68
地域公共交通確保維持改善事業費補助金	56
その他	171
計	1,607

## 二 販売土地及び建物

区分	金額(百万円)	面積(m <sup>2</sup> )
土地 広島市安佐南区毘沙門台地区	2,209	35,732.13
広島市佐伯区石内原田地区	5,793	861,208.51
広島市佐伯区月見台地区	403	5,425.08
広島市南区仁保南	163	1,488.34
広島市佐伯区東観音台	27	384.94
広島市西区己斐滝ヶ迫	17	437.41
広島市佐伯区坪井	1	1,056.49
島根県大田市三瓶地区	2	213,595.22
広島市南区宇品御幸(一部構築物を含む)	18	137.40
アンヴェール比治山マンション用地	376	1,241.18
計	9,015	1,120,706.7

## ホ 貯蔵品

区分	金額(百万円)
工事用品	279
乗車券類	72
その他	1
計	353

流動負債

イ 短期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)広島銀行	1,762
(株)三菱東京UFJ銀行	1,106
(株)伊予銀行	656
(株)中国銀行	492
(株)山口銀行	451
その他	533
計	5,000

ロ 1年内返済予定の長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)広島銀行	1,963
(株)三菱東京UFJ銀行	1,390
中央三井信託銀行(株)	588
三菱UFJ信託銀行(株)	422
(株)日本政策投資銀行	405
その他	1,141
計	5,911

八 未払金

区分	金額(百万円)
未払物品代	
清水建設(株)	2,901
広電建設(株)	850
広島日野自動車(株)	455
いすゞ自動車中国(株)	275
大亜工業(株)	89
(株)広電ストア	72
その他	460
小計	5,104
その他	134
計	5,239

固定負債

イ 長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)広島銀行	1,996
(株)三菱東京UFJ銀行	1,395
三菱UFJ信託銀行(株)	1,067
中央三井信託銀行(株)	915
(株)日本政策投資銀行	733
その他	1,123
計	7,232

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで																								
定時株主総会	6月中																								
基準日	3月31日																								
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日																								
1単元の株式数	1,000株																								
単元未満株式の買取り																									
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部																								
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社																								
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額																								
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、広島市において発行する中国新聞に掲載する。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.hiroden.co.jp/">http://www.hiroden.co.jp/</a>																								
株主に対する特典	毎年3月31日及び9月30日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対して、その所有株式数に応じて次のとおり株主優待乗車券または株主優待乗車証を発行する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">優待基準</th> <th style="text-align: center;">優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,000株以上 3,000株未満</td> <td>電車全線 乗車券 ... 4枚</td> </tr> <tr> <td>3,000株以上 5,000株未満</td> <td>〃 ... 8枚</td> </tr> <tr> <td>5,000株以上 7,000株未満</td> <td>〃 ... 12枚</td> </tr> <tr> <td>7,000株以上 9,000株未満</td> <td>〃 ... 16枚</td> </tr> <tr> <td>9,000株以上 11,000株未満</td> <td>〃 ... 20枚</td> </tr> <tr> <td>11,000株以上 12,000株未満</td> <td>〃 ... 24枚</td> </tr> <tr> <td>12,000株以上 24,000株未満</td> <td>電車・市内バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚</td> </tr> <tr> <td>24,000株以上 36,000株未満</td> <td>郊外バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚 電車全線乗車券(1枚1乗車有効) ... 12枚</td> </tr> <tr> <td>36,000株以上 150,000株未満</td> <td>電車・バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚</td> </tr> <tr> <td>150,000株以上 300,000株未満</td> <td>〃 (2枚目以降持参人式) ... 2枚</td> </tr> <tr> <td>300,000株以上</td> <td>〃 (2枚目以降持参人式) ... 3枚</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、広島空港リムジンバス、米子線及び呉市域の一部を除く。</p> <p>〔権利確定日〕                      〔有効期間〕          3月31日..... 6月1日から11月30日まで          9月30日..... 12月1日から翌年5月31日まで</p> <p>このほか、毎年3月31日及び9月30日現在の最終の株主名簿に記載または記録された所有株式数が、1,000株以上の株主に対し、下記の優待品を贈呈する。          広電グループ 諸施設株主ご優待割引券 ..... 1セット          優待ギフト ..... 1セット</p>	優待基準	優待内容	1,000株以上 3,000株未満	電車全線 乗車券 ... 4枚	3,000株以上 5,000株未満	〃 ... 8枚	5,000株以上 7,000株未満	〃 ... 12枚	7,000株以上 9,000株未満	〃 ... 16枚	9,000株以上 11,000株未満	〃 ... 20枚	11,000株以上 12,000株未満	〃 ... 24枚	12,000株以上 24,000株未満	電車・市内バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚	24,000株以上 36,000株未満	郊外バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚 電車全線乗車券(1枚1乗車有効) ... 12枚	36,000株以上 150,000株未満	電車・バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚	150,000株以上 300,000株未満	〃 (2枚目以降持参人式) ... 2枚	300,000株以上	〃 (2枚目以降持参人式) ... 3枚
優待基準	優待内容																								
1,000株以上 3,000株未満	電車全線 乗車券 ... 4枚																								
3,000株以上 5,000株未満	〃 ... 8枚																								
5,000株以上 7,000株未満	〃 ... 12枚																								
7,000株以上 9,000株未満	〃 ... 16枚																								
9,000株以上 11,000株未満	〃 ... 20枚																								
11,000株以上 12,000株未満	〃 ... 24枚																								
12,000株以上 24,000株未満	電車・市内バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚																								
24,000株以上 36,000株未満	郊外バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚 電車全線乗車券(1枚1乗車有効) ... 12枚																								
36,000株以上 150,000株未満	電車・バス全線 乗車証 (1名記名式) ... 1枚																								
150,000株以上 300,000株未満	〃 (2枚目以降持参人式) ... 2枚																								
300,000株以上	〃 (2枚目以降持参人式) ... 3枚																								

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。  
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利  
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利  
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利  
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の 確認書	事業年度 (第102期)	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	平成23年6月30日 中国財務局長に提出
(2) 内部統制報告書	事業年度 (第102期)	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	平成23年6月30日 中国財務局長に提出
(3) 四半期報告書、四半 期報告書の確認書	(第103期第1四半期)	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	平成23年8月12日 中国財務局長に提出
	(第103期第2四半期)	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	平成23年11月11日 中国財務局長に提出
	(第103期第3四半期)	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	平成24年2月13日 中国財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項 第9号の2(株主総会における議決権行使の結果) の規定に基づく臨時報告書		平成23年7月4日 中国財務局長に提出
	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項 第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時 報告書		平成23年11月14日 中国財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月28日

広島電鉄株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	濱田 芳弘
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	河合 聡一郎

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている広島電鉄株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、広島電鉄株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、広島電鉄株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、広島電鉄株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- ( ) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。  
2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月28日

広島電鉄株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	濱田 芳弘
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	河合 聡一郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている広島電鉄株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第103期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、広島電鉄株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ( ) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。